



2004年度

★第1回日韓大学生国際交流セミナー★

報告書

お茶の水女子大学留学生センター
同徳女子大学校外国語学部日本語専攻



ホテルロビーにて記念撮影
(8月28日)



同徳のキャンパスで
語りあう日韓の学生たち



チマ・チョゴリを着て
記念撮影する
日本の学生たち

目 次

第1章 セミナー概要	1
1. 参加者・教育指導教員・協力者	2
2. 渡韓前準備・教育	4
3. セミナー日程	6
第2章 日韓大学生国際交流セミナー ...	8
1. 日韓言語・文化エクスチェンジプログラム ..	8
2. グループ活動	25
3. 民俗村観光	33
4. 閉講式・歓送会	33
第3章 セミナーを終えて	34
1. 参加学生の感想	34
2. 教育指導の先生から	67
3. 協力者から	71
編集後記	72

第1章 セミナー概要

主催

日本側・お茶の水女子大学留学生センター

韓国側・同徳女子大学校外国語学部日本語専攻

日時：2004年8月24日（火）～29日（日）（5泊6日）

会場：同徳女子大学校外国語学部マルチメディア言語教育センター（大韓民国ソウル特別市城北区月谷洞 23-1）

去る8月24日から29日まで、日韓の学生がお互いの言語及び文化の理解を促進することを目的として、「第1回日韓大学生国際交流セミナー」が開催されました。主催は本学留学生センターと韓国の同徳女子大学外国語学部日本語専攻の共同主催で、今回参加した本学の学生は、1年生4名、2年生3名、4年生5名の計12名（文教9名、生活3名）、先方の同徳女子大学の学生は、外国語学部日本語専攻3年生の日本留学予定者を中心に17名でした。本学学生はこれら学生の家庭でセミナー期間中4泊のホームステイを経験しました。

セミナーの期間、本学からは留学生センターの森山と加賀美の2名の教員が、同徳からは昨年7月に国際日本学シンポジウムで講演された李徳奉先生、そして本学卒業生であり、現在同徳で教鞭をとられている尹福姫先生が指導・教育を行いました。

ソウル・仁川国際空港に着くと、同徳のスクールバスが、さらに同徳正門前には「歓迎お茶の水女子大学教育研修生」の横断幕が私たちを出迎えてくれました。2日目から4日目までは、午前中は日韓エクスチェンジプログラムで、日本の学生は日本語・日本文化を韓国の学生に教え、韓国の学生は韓国語・韓国文化を日本の学生に教える時間が持たれました。とても人気だったのが、日本の浴衣と韓国の伝統衣装である韓服（チマチョゴリ）を紹介する時間で、それぞれ試着しながらお互いの文化を肌で実感していました。午後は日韓の学生が混成グループを作り、ワークショップ（協働活動）を行った後、韓国探訪の旅に出かけました。グループ活動のテーマは、「韓国の人々は何を大切にしてきたか」で、4日目にはこのテーマを中心にそれぞれグループで探訪した場所や経験について報告会が持たれました。5日目はスクールバスを借り切ってソウル近郊の観光地、民俗村を訪れました。最終日、ホテル前での別れは参加した学生皆が涙、涙、涙で、日本での再会を誓い合っていました。セミナー後の感想文を見ても、韓国の大歓迎に対する感謝や異文化体験の感動や驚きが語られ、今後ともこのようなセミナーをぜひ継続して開催してほしいとの声が多数寄せられました。

お茶の水女子大学留学生センター 森山 新

1. 参加者・教育指導教員・協力者

参加者

	名 前	所 属	学 年
日本側・お茶の水女子大学	大家浩美(おおいえ・ひろみ)	文教育学部・言語総合	4
	佐藤理保子(さとう・りほこ)	文教育学部・言語文化(日文)	4
	鈴木美穂(すずき・みほ)	文教育学部・言語文化(日文)	4
	松居真里(まつい・まり)	文教育学部・言語文化(英文)	4
	丸谷麻衣(まるたに・まい)	文教育学部・言語文化(英文)	4
	鈴木友里子(すずき・ゆりこ)	文教育学部・人文科学科	2
	竹内綾花(たけうち・あやか)	生活科学部・人間生活学科	2
	藤原裕子(ふじわら・ゆうこ)	生活科学部・人間生活学科	2
	野崎美智子(のざき・みちこ)	文教育学部・人文科学科	1
	岬ノ下裕子(はげのした・ゆうこ)	文教育学部・人文科学科	1
武藤知衣(むとう・ちえ)	生活科学部・食物栄養学科	1	
山田可名(やまだ・かな)	文教育学部・言語文化	1	
韓国側・同徳女子大学校	ペ・ミウン	外国語学部日本語専攻	4
	イ・ギウオン	外国語学部日本語専攻	3
	イ・サンウン	外国語学部日本語専攻	3
	イ・ユジョン	外国語学部日本語専攻	3
	キム・コッポラ	外国語学部日本語専攻	3
	キム・ヒョギョン	外国語学部日本語専攻	3
	キム・ヒョンオク	外国語学部日本語専攻	3
	キム・ヒョンジョン	外国語学部日本語専攻	3
	キム・ヘヨン	外国語学部日本語専攻	3
	クオン・ウンジ	外国語学部日本語専攻	3
	チョン・ジン	外国語学部日本語専攻	3
	チン・ジョンヒョン	外国語学部日本語専攻	3
	ト・ラジ	外国語学部日本語専攻	3
	ナ・ヨンシル	外国語学部日本語専攻	3
ファン・ジョン	外国語学部日本語専攻	3	
ペ・ユンジョン	外国語学部日本語専攻	3	
ユン・ヘソン	外国語学部日本語専攻	3	

教育指導教員

日本側	森山新	お茶の水女子大学・留学生センター
	加賀美常美代	お茶の水女子大学・留学生センター
韓国側	李徳奉（イ・トクボン）	同徳女子大学校・外国語学部
	尹福姫（ユン・ボクヒ）	同徳女子大学校・外国語学部

協力者

日本側	陳 毓敏（編集）	お茶の水女子大学留学生センター
	房 賢嬉（韓国語講座）	お茶の水女子大学大学院
韓国側	水口里香（セミナー運営）	同徳女子大学校大学院博士課程

2. 渡韓前準備・教育

5月6日(木)	セミナー募集開始
5月14日(金)	【セミナー説明会】(担当：森山) (共通講義棟3号館102号室)
5月18日(火)	【セミナー説明会】(担当：森山) (共通講義棟3号館102号室)
5月21日(金)	【セミナー説明会】(担当：森山) (共通講義棟3号館102号室)
5月25日(火)	【セミナー説明会】(担当：森山) (共通講義棟3号館102号室)
5月25日(火)	セミナー参加者募集締切
6月7日(月)	<p>【セミナー説明会】(担当：森山)</p> <p>①参加者顔合わせ</p> <p>②今後の日程紹介など</p> <p>③パスポートの準備、海外旅行者保険の加入、セミナー費用の入金方法などの説明</p>
6月10日(木)	<p>【韓国語講座1】(講師：房)</p> <p>ハングルの基本母音10文字と基本子音14文字の発音と書き方を学ぶ</p> <p>①母音</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語にない母音に注意しながら、読み方を練習 ・母音の歌を一緒に歌う ・基本母音だけで構成された単語を利用し、読み方を確認 <p>②子音</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子音の読み方及び、激音と平音の違いに注意しながら学ぶ <p>③子音と母音の組み合わせの発音</p>
6月17日(木)	<p>【韓国語講座2】(講師：房)</p> <p>濃音の読み方及び、合成母音の読み方</p> <p>①前回の授業の復習：単語を一緒に読みながら、読み方を全体で確認</p> <p>②カルタゲーム：2グループに分かれて、教師が読み上げる字を取り合う</p> <p>③濃音の発音</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平音、激音、濃音の違いを比較しながら学習 ・全員が発音を聞いて区別ができるかどうか確認する <p>(2グループに分かれ、一つのグループが一人ずつ発音するのを聞いて、他のグループの人はどの発音だったかをA・Bが書いてある札を使って示す)</p> <p>④合成母音の発音：一つずつ取り上げ、なぜそのような発音になるかを説明</p>
6月24日(木)	<p>【韓国語講座3】(講師：房)</p> <p>①前回の授業の復習</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・合成母音の読み方を一緒に読みながら確認 ・文章を読む時、イントネーションによってニュアンスが異なることを説明 <p>②パッチムの読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの子音からなるパッチムの読み方 ・二つの同じ子音からなるパッチムの読み方 ・異なる二つの子音からなるパッチムの読み方 <p>を説明した後、一緒に読みながら、読み方を一緒に確認</p> <p>③発音のルール：有声音化、連音化、口蓋音化</p>
7月1日(木)	<p>【韓国語講座4】(講師：房)</p> <p>①韓国を旅行する際、役に立つフレーズを学ぶ (具体的には、自己紹介・買い物・場所を聞く・レストランで注文をする・簡単な挨拶表現など)</p> <p>②全員で読み方と意味を確認後、3～4人のグループになって学んだ表現を使って、各場面における会話を協力しながら作ってみる</p> <p>③グループの活動が終わったら、グループ別に作成した会話を発表する</p>
7月8日(木)	<p>【日韓語学エクステンジの説明】(担当：森山)</p> <p>セミナー時に3日間行われるエクステンジの日本語・日本文化理解の授業のデザイン、シラバスの作り方について説明</p>
7月15日(木)	<p>【異文化理解について】(担当：加賀美、房)</p> <p>異文化を理解する姿勢や韓国でホームステイをする際の注意事項を説明</p>
7月22日(木)	<p>【日韓語学エクステンジのシラバス作成】(担当：森山)</p> <p>2週間、グループごとに検討した内容(授業内容、用いる教材など)を確認</p>
8月23日(月)	<p>【センター長の挨拶、前日の最終確認】(担当：森山、佐々木、加賀美)</p> <p>センター長よりセミナー参加者に激励の挨拶、翌日の集合時間・場所、おみやげ、成田までの交通手段などについての最終確認</p>



3. セミナー日程

月日	時間	スケジュール	
24 火	8:00 10:00 12:30 15:00 17:00	成田集合（第2旅客ターミナル） 成田発→仁川へ（アジアナ航空） 仁川着：スクールバスにて同徳へ 開講式 趣旨説明（森山）・講演（李） プログラム紹介 ホームステイ対面式 解散、各ホームステイ先へ	
25 水	9:50 10:00 11:10 12:10 13:20 14:30 16:30 18:00	集合 日本語・日本文化1（担当：1年生） 韓国語・韓国文化1 昼食（配達） ワークショップ（加賀美） グループ別に活動計画討論 電子図書館見学 歓迎夕食会	
26 木	9:50 10:00 11:10 12:00	集合 日本語・日本文化2（担当：2年生） 韓国語・韓国文化2 グループ活動出発 グループ毎に報告書作成	
27 金	9:50 10:00 11:10 12:10 14:00 17:00	集合 日本語・日本文化3（担当：4年生） 韓国語・韓国文化3 昼食（大学前） 報告会（グループ野外活動） 学長との面会	
28 土	10:00 11:30 15:00 17:00 18:00 20:00	集合（ホテル）、民俗村出発 民俗村到着、グループ行動 民俗村発 ソウル（大学路）着 大学路の飲食店で閉講式 ホテル着	

29日	9:00	自由行動
	14:00	ホテル集合、リムジンバスで仁川へ
	16:00	仁川空港着、搭乗手続き
	18:20	仁川発、成田へ（アジアナ航空）
	20:30	成田着、解散



第2章 日韓大学生国際交流セミナー

1. 日韓言語・文化エクステンジプログラム

担当：森山 新

25日から27日までの3日間(午前)、同徳女子大学マルチメディア言語教育センターにおいて、日韓言語・文化エクステンジプログラムが行われた。これはそれぞれの学生が自分の言葉と文化を教えるプログラムである。

国際交流をなすにあたり、言葉と文化は私たちが直面する2つの大きな壁である。普通はこれらを教わるか、または教えるかのどちらかの立場に立つことが多いが、これだと教わる側と教える側とが対等な立場に立ちにくい。また自分が教えた言葉や文化を相手はどのように理解したのかといったこともわかりにくい。本プログラムはエクステンジプログラムとして、自分の国の言葉や文化について教えた経験を持たない学部生同士が、ある時は学び、ある時は教えるという立場に自らを置くことにより、言葉や文化を教えるということはどのようなことか、どのようにしたらうまく自分の言葉や文化を外国の人に伝えられるかといったことを学び、それが国際交流にとって非常に重要な第一歩になることを体験してもらった。また日頃私たちは外国語を学んでいるが、国際化時代を迎え、外国との接触や交流が日常的になった今日、言葉の学習だけでは十分でなく、言葉と文化とを一体のものとして学んでいく必要があるということを知ってもらえたらという理由から、授業内容を単に語学エクステンジプログラムにしなかった。

このプログラムは事前の準備段階から開始された。日本語専攻の学生だけで構成された韓国側の学生たちは夏休み中にもかかわらず何度も大学に足を運び綿密な準備を行い、このセミナーに備えてくださったようで、今回のプログラムのために、30ページにもなる韓国語・韓国文化紹介の自作テキストが作られ製本され、私たち一人一人に配布された。一方の日本側は、全学から希望者を募ったこともあり、事前の準備は十分とはいえなかったものの、3つのグループごとに、テーマ決定から教案作成、そしてテキスト作り、リハーサルに至るまで、自分たちの力で行ってセミナーに臨んだ。日韓双方とも、外国の学生に自分の言葉や文化を教えることは初めてということで、試行錯誤、悪戦苦闘もあったかもしれないが、お互いの反応はとてもよかった。日頃日本語や日本文化を教えることを仕事としている私たちさえも、学ぶことが少なくなかったと言える。

1日目	10:00～11:00	日本語・日本文化1 お茶の水女子大学1年生チーム
	11:00～12:00	韓国語・韓国文化1 同徳女子大学グループ1
2日目	10:00～11:00	日本語・日本文化2 お茶の水女子大学2年生チーム
	11:00～12:00	韓国語・韓国文化2 同徳女子大学グループ2
3日目	10:00～11:00	日本語・日本文化3 お茶の水女子大学1年生チーム
	11:00～12:00	韓国語・韓国文化3 同徳女子大学グループ3

日本語・日本文化エクステンジプログラム 1

日韓エクステンジ語学プログラム

2004.8.25

★SMA P × SMA Pから考えよう★

担当：お茶の水女子大学1年 はげのしたゆうこ のざきみちこ むとうちえ やまだかな
帆ノ下裕子・野崎美智子・武藤知衣・山田可名

<中居正広と山口智子の会話から・・・>

山口：今回、こういう本とか書きちゃってるんですけど、なんかすごい旅づいてて、旅の作品を色々やってて・・・

中居：仕事に、本格的な活動にちょっと戻れなくなっちゃったのかな、なんて・・・

山口：イヤ、ホント時間はあっという間なんです。だから、ホントやりたいこと、今やったほうがいいですよ、みなさん。

中居：僕らが今やってることって・・・僕らも休んだほうがいいですかね・・・？

山口：休むっていうか、若いときっていうか若い細胞で感じる旅と、また、年を重ねたときに感じる旅って違うから。今！と思ったら今、行っておくといいですよ。

中居：山口さんはその瞬間だったわけですね。この8年間というのが。

山口：そうですか？そんなに長いこと休んでるつもりじゃなかったんですけど。

中居：すごい休んでる感がありますよ。

“反省文ハワイ”ということは、今までの反省されたことを書かれたとかそういうことですか？

山口：旅の番組があって、6カ国くらいテーマで色々世界回ったんだけど、このハワイの前がチリ、南米のチリ行って、チリの本を最初に書いて、これ2冊目で、ハワイの島を全部回って・・・そしたら、すごくもう反省しまくったっていうことになったんで、ちょっと書かなきゃいけない・・・

中居：何ですか、反省したことって・・・？

山口：それは、読んでみれば分かっちゃうなあ。

中居：読んでみれば分かるんですか？！

これ、「反省」ってというのは、自分の「半生」ってあるじゃないですか、“半生を振り返る”の「半生」、(山口：半分の人生ってこと?) それもちょっと掛けてたりするんですか？

山口：あ！深いですね。じゃあ、そういうことにしておきます。

中居：ウソ～！そういう意味だと思ってた！（山口：そうそう、そうかもしれない！）

「反省文」ってというのは、山口智子が「半生」を振り返る・・・

山口：あっ、そうだ。

ちょうど40(歳)だし、人生折り返し地点でいいかもしれない。

中居：40(歳)ですか。

山口：40(歳)、あっという間ですね(笑)

中居：40(歳)ですかぁ・・・

<重要語句>

- ・旅づく；旅をたくさんする cf.) ～づく；～の状態が強まる、盛んになる
- ・本格的；本来の通りに正しくすること、きちんと行うこと
- ・あっという間；とても速く過ぎること、とても短い時間
- ・っていうか；～というよりも…
- ・年を重ねる；年をとる
- ・瞬間；とても短い時間、まさにその時
- ・すごい、すごく；とても cf.) 「すごい」は、「すばらしい」という意味でも使う
- ・～感がある；～のような感じがする、気がする、～のように思う
- ・反省；自分のしてきたことを振り返って、それでよいかを考えること
- ・～される；「する」の尊敬語 cf.) なさる
- ・反省しまくった；たくさん反省した、反省することがたくさんあった
- ・半生；一生の半分、それまで生きてきた間
- ・掛ける；ある言葉に他の意味を持たせること ex.) まつ→「松」、「待つ」
- ・折り返し地点；引き返す場所、中間の場所 ex.) マラソン

<練習>

- (1) 本格的；本格的に韓国語を勉強する。
- (2) あっという間；あっという間に夏休みが終わっちゃった。
- (3) すごい、すごく；駅の近くに、すごく大きなビルがあるよ。

<Let's Talk!!>

◇男の人が料理をすることについて、
どう思いますか？

- ・一般的に、男性は料理をしますか？
- ・お父さんが、料理をしますか？



日本語・日本文化を教える日本の学生

◇旅行するとしたらどこに行きたいですか？また、それはなぜですか？

- ・あこがれる国はありますか？
- ・今まで、行ったことのある国はありますか？
- ・旅行は好きですか？

日本語・日本文化エクステンジプログラム 2

～ゆかた～

担当：お茶の水女子大学2年生チーム

<浴衣について>

浴衣とは、もともとは入浴の時または入浴後に着る^{ひとえ}単衣のこと。現在では夏季に着る木綿の単衣のことを指し、主に花火大会などの時に着用する。

(1)

《コメント》

ピンク×白の淡い色のゆかたに、濃い帯をピリッと効かせて。甘い桜模様の帯に、裏地の渋いむらさきをチラリとのぞかせます。

- ・淡い：(色、味、光などが)うすい。あっさりしている。しつこくない。はかない。
- ・帯：着物の上から腰に巻いて結ぶ長い布。
- ・ピリッと：(副詞)
 - ① 薄手の材質の紙や布などが勢いよく裂ける音、また、そのさま。この場合「ピリッと」という場合も多い。
 - ② 辛みや、弱い電流を感じるさま。
 - ③ 体がひきしまるさま。態度などが毅然としているさま。
ここでは③の意味。
- ・効く：ききめがある。効能が現れる。
- ・甘い：
 - ① 砂糖あめなどの味がするさま。塩気が少ない。
 - ② (甘味は人に快く受け入れることから)受け入れて楽しく気持ちよい。 例文「甘いメロディー」
 - ③ 不足があっても認めてくれ、厳しく言わないので、接して楽である。処置がゆるやかである。 例文「生徒に甘い先生」
 - ④ 事を処理するのに考え方や力が不十分である。また、そのために事にうまく合わない。
 - ⑤ ゆるく、締まりがないさま。例文「ねじが甘くなる」

- ・ 渋い：①舌を刺激する味。
 ②はでやかでなく、おちついた深い味がある。 例文「渋い色のかばん」
 ③不平そうである。 例文「渋い顔をする」
 ④金品を出し惜しむ。けちである。 例文「金払いが渋い」
- ・ チラリ：①光、影などが一瞬の間、わずかに目に触れるさま。
 ②噂などが、わずかに耳に入るさま。ちょっと。

《練習問題》 次の下線部にあてはまる言葉を、上記の意味を参考に、あてはめて下さい。

- ① _____ 恋心を抱く。
- ②お茶がとても _____。
- ③彼の噂を _____ と耳にする。
- ④自分の考えが _____、友人に迷惑をかけてしまった。
- ⑤ _____ とした辛さが _____ っていて、とても美味しいキムチである。

《コメント》

白地にうっすらとピンクで描かれたストライプが楚々とした華やかさをかもし出します。
 朱赤×黒のリバーシブルの帯で辛さをプラス。

- ・ うっすら：量や程度がわずかで薄いさま。かすかに。ほのかに。 例文「うっすらと覚えている」
- ・ ストライプ：英語から来た言葉であり、^{しま}縞や^{しまもよう}縞模様のこと。
- ・ 楚々：①さっぱりとしたさま。あっさりとしたさま。
 ②(多くの若い女性が)清らかで美しいさま。 例文「楚々とした令嬢」
- ・ かもし出す(^{かもしだす}醸し出す)：ある感じや雰囲気などをそこはかたなく作り出す。 例文「真剣な空気をかもし出す」
- ・ 辛い：①激しく舌を刺激するような味。
 ②心身に強い刺激を与える状態、または心身に強く感じるさまである。
 ここでは、①の発展的な意味で、全体の調子を強くひきしめる、強調点、力点といった意味で使われている。

《練習問題》

- ① _____ と雪が積もる。
- ② 大人の女性の雰囲気 _____。
- ③ _____ として、上品な洋服。
- ④ 赤と白の _____ の洋服。

話し合ってみたいこと

私たちが韓国の民族衣装として思う浮かべるのはチマチョゴリですが、その他に、独特な衣装はあるのですか？

また、そのような民族衣装は、どのように受け入れられているのでしょうか？特に若い人にとってはどうなのでしょう？日本の浴衣のように、若い女性が読むようなファッション雑誌に載ることもあるのでしょうか？



浴衣を着る韓国の学生

日本語・日本文化エクステンジブプログラム3

～祭(まつり)～

担当：お茶の水女子大学4年生チーム

☆日本の祭りの特徴・テキ屋・☆

お祭りになると会場近辺には「テキ屋」と呼ばれる屋台が多数出店されます。テキ屋は

- ・食べ物系→焼きそば、焼き鳥、とうもろこし、じゃがバター、りんごあめ、わたあめ等
- ・ゲーム系→くじびき、金魚すくい、ヨーヨーつり、スーパーボールすくい等

以上の2タイプに分けられます。テキ屋で買ったりんごあめをかじり、ヨーヨーを片手に歩くとお祭り気分も盛り上がり、楽しさも倍増します。

☆代表的な日本のお祭り☆

1.阿波踊り(徳島県)

【歴史】

阿波踊りは江戸時代、阿波藩主蜂須賀家政（はちすか・いえまさ）公が、徳島城築城記念の宴を催したときに踊られたのが始めと言われています。しかし実際は、その起源はさらにさかのぼり、室町時代の京都で流行していた、風流踊りに影響を受けていると考えられています。はじめは盆踊りであったものが、やがて「阿波踊り」として確立していったという説が現在有力です。

【踊りのルール】

「手を上げて、足を運べば阿波踊り」といわれるとおり、阿波踊りには決まった型はなく、楽しく踊ればそれでよしとされています。しかし、人が見て「きれいだ」と思う踊りを踊るには長くつらい鍛錬が必要です。そして何より一番大切なことは、笑顔を忘れないことです。

阿波踊りには大きく分けて男踊りと女踊りがあります。どちらの踊りも、両手と両足をハの字に開き、右手と右足、左手と左足を一緒に出すのが基本である。男踊りは腰を低く落とし、ひじから先とひざから先のみを動かして踊ります。腰は低ければ低いほど良い踊りだとされています。また、低い姿勢でも背筋はまっすぐ伸ばしていなければならぬため、体力的には非常にきついです。男踊りとはいいませんが、女性や子どもが踊ることも多々あります。女踊りは背筋を伸ばし、下駄を履いて爪先立ちになり、足を大きくあげて踊ります。衣装の裾がめくれあがるほど激しく蹴り上げると、美しく見えるとされています。

【連】

阿波踊りはチームを組んで踊りますが、このチームのことを「連（れん）」と言います。各連は「桜花連」「さくら連」など「～連」という名前をつけています。変わったものでは「竹の子連」（徳島大学医学部→末は「ヤブ」だから）、「レレレの連」（レレレのおじさんという漫画キャラクターに扮して踊ります）があります。

【にわか連】

各連は阿波踊りの数ヶ月前から練習を重ねて本番に挑みますが、一つだけ例外の連があります。それが「にわか連」です。「にわか」というのは「急な」という意味を持つ単語ですが、その名の通り「急にその場でできた連」という意味で、この連では誰でも自由に参加して踊りの列の中に加わることができます。阿波踊りの御囃子（おはやし）は「踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら踊らにや損々」というものになっていますが、その御囃子どおり「見る阿呆」から「踊る阿呆」になってしまえ！という意味を込めてこの連ができました。最も「阿波踊り」らしい連と言えるでしょう。

2. よさこい(高知県)

【歴史】

よさこい祭りは非常に歴史の浅い、新しいお祭りです。昭和 29 年（1954 年）に高知市の商店街の活性化を目指して生み出されました。また、お隣の徳島県には伝統的な阿波踊りがあり、それに負けないものにしようと、昔から受け継がれていた、「よさこい節」の曲を基に踊りを考えできたお祭りです。

【踊りのルール】

新しいお祭りのため、ルールは非常に斬新です。

- ・ 1 チームの踊り子は 150 人以下とすること
- ・ 鳴子を持って前進する踊りであること
- ・ 各チーム地方車を用意すること
- ・ 曲の中にはよさこい節を必ず入れること（ただし、アレンジは自由）

以上のルールさえ守ればあとはほぼ自由です。そのため、チームによって衣装・振り付け・曲調などがかなり異なり、よさこい当日にはバリエーション豊かな演舞を見ることができます。

【地方車（ぢかたしゃ）】

地方車とは、簡単に言えばトラックのことです。しかし普通のトラックではありません。各チーム、個性的なデコレーションをほどこしています。デコレーション以外にもバンドを乗せ生演奏するなど、様々な工夫を凝らしています。基本的な役割としては巨大なスピーカーを取り付けて踊り子を先導しています。地方車には「歌い手」と呼ばれる人が乗り、掛け声で踊り手に気合いを入れたり、実際に歌ったりします。地方車はいわば、チームの

顔であり、なくてはならないものです。最近では地方車賞もでき、よりいっそうデザイン性が高くなっています。



阿波踊りを説明する



阿波踊りを実際に披露する

韓国語・韓国文化エクステンジプログラム (抜粋)

1. ドラマで学ぶ韓国語 (1日目)

ドラマ - 가을동화(秋の童話)

상황 설명 : 오빠의 만행으로 동생인 은서를 돈 많은 늙은이에게 팔려고 하였다. 이 사실을 알게 된 태석은 맞선 장소로 향하는 은서를 못 가게 한다.(은서를 좋아하는 태석) 은서의 집 근처 바닷가로 데려가서 나누는 대화 내용이다.

狀況説明 : 兄の蛮行で妹のウンソを金持ちのおいぼれに売ろうとした。この事実がわかるようになったテスグはお見舞いの所に行くウンソをいけないようにした。(ウンソが好きなテスグ) ウンソの家の近くの海に連れていかず対話の内容である。

韓国語

은서(송혜교) : 그 늙은이 나 좋다는 사람이고 나만 좋다면 나 사주겠대요.

geu neulgeuni na jotaneun saramigo naman jotamyeon na sajugetdaeyo.

그럼 됐죠. 감사 해야죠 그렇지?? 그죠??

geureom dwaetjyo. gamsa haeyajyo. geureochyo??geuiyo??

태석(원빈) : 얼마야?? 너 대체 얼마데??내가 사줄게. 내가 더 비싸게 사주면 되잖아

eolmaya?? neo daeche eolmande?? naega sajulge. neaga deo bissage sajumyeon doe jana.

日本語

ウンソ : そのおいぼれ私良いという人で私だけ良ければ私買ってあげそうよ。それではよかったです。感謝しますよ。そうでしょう?? ね?

テスグ : いくらか?? お前一体いくら? 私が買ってあげる。私をもっと高く買って欲すれば良いんじゃないの。

상황 설명 : 불치병에 걸린 은서는 힘든 날들을 보낸다. 태석은 자신의 마음을 받아주지 않는 은서를 호텔에서 하고 시킨다. (태석은 호텔의 이사, 은서는 종업원) 이 소식을 알게 된 은서는 태석의 방으로 향하는데..

狀況説明 : 不治の病になっちゃったウンソはたいへんな日々を過ごしている。テスグは自分の心を受けてくれないウンソを首にした。(テスグはホテルの理事、ウンソは修業員) この事実が分かるようになったウンソはテスグの部屋に行くが、

태석(원빈) : 사랑? 웃기지만! 이젠 돈으로 사겠어. 돈으로 사면 될 거 아냐~
얼마면 될까?? 얼마면 되겠냐??
sarang? utgijima! ijen doneuro sageseo. doneuro samyeon doel
geo anya ~ eolmameon doelkka?? eolmameon doegenny??

은서(송혜교) : 얼마나 줄 수 있는데요? 나 돈 필요해요! 돈...
정말 필요해요. 얼마나 줄 수 있는데요??
eolmana jul su inneundeyo? na don piryohaeyo! don...
jeongmal piryohaeyo. eolmana jul su inneundeyo??

日本語

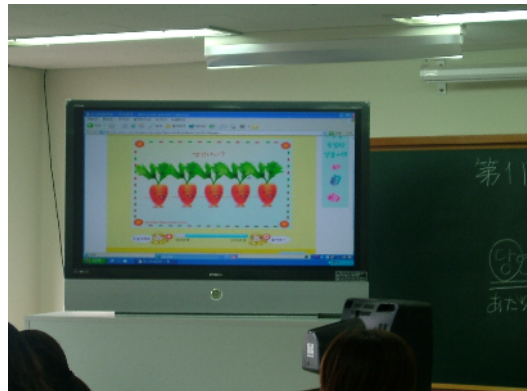
テスグ : 愛? ふざけんな! もうお金で買う! お金で買えばいいじゃん。
いくらならできるか??いくらならできるのか??
ウンソ : いくらあげられるんです? 私お金必要です!お金...本当に必要なんです。
いくらあげられるんですか?



秋の童話で韓国語を学ぶ

2. 歌で学ぶサバイバル韓国語 (2日目)

2日目のプログラムでは、韓国で流行しているにんじんの歌を使って韓国語を勉強しました。



韓国の流行歌で韓国語を学ぶ

3. 場面で学ぶサバイバル韓国語（1、2日目）

《2：食堂で》

- ㉑ 무엇을 드시겠습니까?
mueoseul deusigesseumnikka?
何なさいますか。
- ㉒ 떡볶이 1인분 주세요.
ttukbokki ilinbun juseyo.
トックポキ一つください。
- ㉓ 저는 순대를 먹을래요.
jeoneun sundaeareul meogeulaeyo.
私はスンデを食べます。
- ㉔ 잠시만 기다리세요.
jamsiman gidariseyo.
少しお待ちください。
- ㉕ 여기 떡볶이 1인분, 순대 1인분입니다.
yeogi ttukbokki ilinbun, sundae ilinbun imnida.
トックポキ一つ、スンデー一つです。
((다 먹고 난 후 食べたあと))
- ㉖ 떡볶이가 맛있어요. 얼마예요?
ttukbokkiga massisseoyo. eolmaeyo?
トックポキがおいしいですね。いくらですか。
- ㉗ 사천원입니다.
sacheonwon imnida.
4000ウォンです。



韓国語・韓国文化を学ぶ学生たち

《 3 : 服屋で 》

- ㉞ 어서오세요.
eoseo oseyo.
いらっしゃいませ。
- ㉟ 티셔츠를 사려고 해요. 요즘 어떤 옷이 제일 인기 있어요?
tishirtreil saryeogohaeyo. yojeom eottun ossi ingiisseoyo?
チーシャツを買いたいのですが。最近どんなふくが人気ですか。
- ㊱ 이걸 어떠세요?
igeon eott대seyo?
これはどうですか。
색깔은 파란색, 검은색, 흰색이 있어요.
saekkareun paransaek, geomeunsaek, huinsaegi isseoyo.
色は青、黒、白があります。
- ㊲ 이거 어때?
igeo eotte?
これどう?
- ㊳ 흰색이 제일 이쁜 것 같아.
huinsaegi jeil ippeungeogata.
白が一番きれいねー
- ㊴ 흰색으로 주세요.
huinsaegeuro juseyo.
白でください
- ㊵ 사이즈가 어떻게 되세요?
saijeuga eotteokke deseoyo?
サイズはどのぐらいですか。
- ㊶ 스몰사이즈예요. 얼마예요?
seumol saijeueyo. eolma-eyo?
スモールサイズです。いくらですか。
- ㊷ 이만원입니다.
imanwon imnida.
20000ウォンです。
- ㊸ 비싸네요. 좀 싸게 해 주세요.
bissaneyo. jom ssage hae juseyo.
高いですね。もっと安くしてください。
- ㊹ 안돼요. 이것도 싼거예요.
andaeyo. igeotto ssangeo-eyo.
だめです。これももう安いです。
- ㊺ 옆가게에선 19000원이었는데.
yeupgage-eseon mangucheonwon ietneunde.
隣の店では19000ウォンだったのに。。
- ㊻ 그럼 만팔천원만 주세요..
geurum manpalcheonwonman juseyo.
じゃ、18000ウォンにしましょう。
- ㊼ 감사합니다.
gamsahamnida.
ありがとうございます。



韓国語を教える韓国の学生たち

4. 韓服を体験する（3日目）

1. 韓服の紹介

韓服の歴史は高句麗，百濟，新羅の三国時代から始まります。

始めて韓服の跡を見つけたことは高句麗時代のお墓の壁画からです。

長い間、韓服は時代によってチョゴリの長さ、袖の広さ、チマの幅が少しずつ変わるだけ、大きな変化はありませんでした。

シルクとか綿、苧などの生地で作られて、ゴルムの色と袖の色などが女性の身分を表していました。

また、年齢と社会的地位、季節によって色の変化があるだけ、服の形は身分の関係なしに、皆同じでした。

韓服は、亜寒帯気候で、三寒四温が続いている自然条件と北方の遊牧民族の文化が合わせています。

それで、下着から上着まで全身を包む形式で、チョゴリとズボン（他は、チマ）が別々、活動的な服であります。

こういう韓服の基本型は今日まで大きな変化がありません。

韓服は丸く、静かで韓国精神を持っている、軽くて着やすいところが韓服の長所で、この頃は祝祭日と結婚式のような特別な日に着られています。

2. 韓服の種類

チョゴリ

袖、キツ、ソップ、ゴルムなどでできている韓服の上着である。

—キツ

キツはチョゴリの前の面から後ろの面までつながっていて首の周りを飾るものである。

。

—ソップ

ソップはチョゴリの左右にそれぞれに付けられて、それはキツを重ねる余分になる。

—ゴルム

ゴルムは技能的に服をそろえる目的で使われたが、最近になってからチョゴリの長さは短くなり、ゴルムは長くなってだんだん飾り付けの役割を果たすようになった。

—トンジョン

トンジョンは服の管理する面で洗濯しやすくする技能がある。

白い布切れに芯を入れ、キツに付けて使う。

チマ

チマはチョゴリの下に履く女性の衣服でその形態はチマの胴体、帯、紐で構成されている。

前の方からまとい、背面から紐で結びつけるので、チマの幅がそのままボリュームを保つ。

チマの形は細かくとったひだが垂直的なイメージをあたえる。

帯は白い布切れで作って、チマの色を引き立てる。

そしてチマは幅が広くて韓国のオンドルの生活に適当であり、背面が開くようになっていて動きやすいだけでなく、とてもきれいである。

ウォンサム(圓衫)

女性礼服の一つで統一新羅時代、中国の唐服飾が入ってきて今日のウォンサムになった。

女性の大礼服で身分によってその色と文様が変わる。全部、四つの種類がある。

一フワンウォンサム:金色のシルクの上に金箔で竜の文様を施したもので皇后が着た。

一ホンウォンサム:紅色のシルクの上に金箔で鳳凰の文様を施したもので王妃が着た。

一ザジョクウォンサム:紫色のシルクの上に金箔で鳳凰の文様を施したもので皇太子の妃が着た。

一ノクウォンサム:緑色のシルクの上に金箔で鳳凰の文様を施したもので王女が着た。

タンイ(唐衣)

朝鮮時代の女性の小礼服で普段着の上に着たが、宮廷では普段着として着られた。

形はチョゴリと似ているが、長さがひざのあたりまで届いている。

普通、緑のチョゴリで紫のゴルムを付けて着た。

フウルオッ

高麗、朝鮮時代に王女が着た大礼服で、形はウォンサムに似ている。

後代に入ってからだんだん民間の花嫁の婚礼服として使われた。

韓服の中で一番美しくて華やかな服である。

3. 韓服の装身具

チョクドゥリ

朝鮮時代、婦女子が礼装の時かぶった冠である。

黒いシルクの六つの布切れをつないで、その中に綿を入れて特別な飾りなしに使った。

。

一フククワン(花冠)

冠を色々な宝石で華やかに飾ったもので礼式に使った。

ピニョ (簪)

ピニョは後頭部で束ねた髪を固定するために使ったもので、飾りつけの意味も大きい。

。

使われた材料と長さで身分の高低が分かる。

ピニョの材料は金、銀、玉、木などの色々なものがある。

一ディコジ

ピニョと一緒に束ね髪にさすもので韓服の美しさを最もきれいに引き立てる。実用的な面を加味してディコジの代わりに楡と耳かきも使われた。

トルジャム

おしどりの一組が仲よく向き合っている中に星と蝶が飛んでいる形状を表現するものである。



韓国の伝統衣装を紹介する韓国の学生

王妃を初めとして上流の階級の女性たちが髪にさした装身具でまるで星と蝶が飛んでいるような雰囲気を漂わせる。

チョップジ

束ねた髪に分け目の中心にさす装身具である。

アヤム

今日、礼服や平服の飾り付けに使われているアヤムはチョクドゥリより先に朝鮮初期から使われた。形は上が開いていて耳を被せないのが特徴である。

ノリゲ

昔から今まで一番一般化した装身具。

金、銀、宝石などを材料で刺繍と結びで作った婦人用の装飾品である。

富貴多男、不老長寿、百事如意などの意味も持っている。

-ウンジャンド（銀粧刀）：ノリゲとしてつけた小刀で、刀と刀のさやに銀装飾をほどこした。婦人が飾りと護身の目的で持った。

カラクジ（指輪）

指輪は夫婦の約束と女性の貞節を意味するもので、既婚女性なら皆、常に付けていた。

金、銀、色々な宝石材料で作られている。

ボソン（足袋）

足を暖めて足の姿をきれいにするために木綿などで作って、履いたものである。

コッシン

シルクで花の刺繍をした靴で貴族が履いた。ボソンと一緒にチマの美しい線を最もきれいに表す。

クイ ジュモニ

普通、福袋と知られているキ ジュモニは福と幸せを祈る心を表すことから由来した。この頃はキジュモニの代わりに韓服と同じ服地で仕上げたハンドバックを使うことも多くなっているようだ。

テンギ

お下げ髪の前につける赤いリボンである。韓国では、結婚する前の女性は三つ編みの髪でテンギをつけた。

オヨモリ

昔、婦人が礼装の時、髻を入れて結った髪型の一つである。

トグジモリ

クンモリを結う時、オヨモリの上ののせる、木で作った髪型の模型。

クンモリ（大首）

昔、宮廷の礼式の時、大礼服に合わせて頭にのせた婦人の髪型。

オヨモリの上にトグジをのせてビニョとメゲテンギで固定させた。

王妃と王女、上流階級の婦女だけが使えた髪型である。

（*メゲテンギ：オヨモリとかクンモリを結う時、髪を固定するためにつけたテンギである。）

4. 韓服を着付け

まずソクチマを履きます。

ソクチマはチマの中に着る下着です。

その次はチマを履きます。

チマを履く時、まず左の紐を右手でとって右の紐は左手でとって紐をわきの下に取り出します。

そして紐をともに締めます。

それからソクジョクサムをきます。

ソクジョクサムはジョゴリの下にきる下着です。

そのつぎジョゴリをきます。

ジョゴリのゴルムを結び方

①服のゴルムを両手で持った後、右のゴルムを交差させます。

②交差させたまま抜きます。

③下側の長いゴルムを半リボンの様子を作った後、左にします。

④短いゴルムを下からいれて上にとって抜きます。

⑤軽く引っ張りながら完成された様子を作ります。

⑥長いゴルムと短いゴルムのさが5～7センチが適当です。

5. ジョルする仕方

第一はクンジョルです。

①右手を左手の上へのせます。

②両手を肩の高さぐらいにして頭を手のこうに当たる程度まで下げます。

③この時足の方は左の足を後にして左の膝と右の膝を広げるようにしておしりの方から座ります。

④両手を床に当たるぐらいまで下げて上半身も手の角度にまでゆっくりと下げていきます。

⑤この状態を3秒ぐらい維持します。1、2、3

⑥ ゆっくり頭と上半身を上げ、立ち上がります。

⑦下半身の方は右の膝を先に立てて左の膝を立てます。

⑧手は完全に立ちよがった後、ゆっくりと下ろします。

第二はピョンジョルです。

①両足をそろえて立った状態で両手を自然によこにします。

②左の足を後にして右の膝を上の方に立ってながら座ります。

③両手はよこにしたまま指先を外側に向けて軽く床に当てます。

④今度もゆっくり頭と上半身を下げていきます。

⑤少しこのままにしてからゆっくりと頭と上半身を上げます。

⑥立ち上がりながら元の姿勢の通りに戻します。

2. グループ活動

担当：加賀美常美代

企画の目的

テーマ：「相手を知る。相手と関わる。共に活動する。」

さまざまな体験をしながら、そのプロセスの中で日韓の学生が相互に学びあうことを目的とした。

前半のワークショップ(企画1)では、初対面の緊張をほぐすことを目的に自己紹介ゲームを実施した。ワークショップの後半(企画2)では、日本人学生、韓国人学生ともに、一つの目的のあるグループ作業を通して、一つの作品を作りあう喜びを味わい、信頼関係を深めることを目指した。野外グループ活動(企画3)では、ソウル市内の探訪のために、メンバーで野外活動計画をたて協働活動がスムーズに行くことを目指した。企画4では、グループごとに目的地を探訪した結果を報告するための準備を協働で行い、体験を通して、韓国の人々が大事にしてきたものが何かを探すことを目的にした。

結果：

企画1. 自己紹介ゲーム

自分の名前と好きなものをいって、挨拶をし、「あいこジャンケン」をした。あいこジャンケンとは、勝ち負けのジャンケンではなく、相手と同じ数になったら、互いに握手をして別れるゲームである。

企画2. グループコラージュ

グループの参加者が、韓国の雑誌、日本の雑誌から好きなものを切り抜き、模造紙に張って自由にまとまりのある作品を作った。出来上がった後、みんなで、作品のタイトルとグループの名前も付けた。

企画3. 野外活動計画と実施

グループメンバーの4人でガイドブックや地図を参考にソウル市内で自分たちが行ってみたい場所と活動計画をたてた。翌日、計画に従って、グループごとにソウル市内の探索をした。

企画4. 報告会

グループごとに目的地探索の報告を模造紙やパワーポイントによるプレゼンテーションで行った。

講評：

まず、日韓の学生同士と一緒に野外活動を楽しんでもらえたことをうれしく思っています。韓国の人々が大事にしてきた習慣やものの考え方、価値観があることが実感として感じられればいいなと思い、グループ活動のテーマとして、「韓国の人々が大事にしてきたものが何か」を自分なりに見つけることを課題としました。グループの報告会では、その答えを明確に反映し、報告を行っていたグループもありましたが、観光地の感想にとどまっている発表もありました。しかし、個人的には、何か将来へつながるきっかけを見つけてくれたのではないかと信じています。今後もこのテーマを思い出してもらえたらうれしいと思います。私も今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。

“おいしい旅” グループの活動報告

メンバー:キム・ヘヨン、ナ・ヨンシル、イ・サンウン・鈴木美穂・野崎美智子

☆ソウル市内を回りながら、食べ物から韓国の文化を知ろう！☆

☆食事をするので、もっともっと仲良くなろう！☆

◇学校→鐘路へ(地下鉄で) 着いてすぐに、タッカルビのお店へ

日本人2人にとっては、辛い料理でした。付け合せのサラダをたくさん食べました。店員さんが、たまに焼き加減を見に来てくれたのですが、黙って来て、やることをやって、黙って去って行きました。日本だったら、「失礼します」とか「ごゆっくりどうぞ」など、何かと色々言うけれど、韓国は違うのだと思いました。また、仕事がないときは店員さん同士で写真をとったり、パソコンをしたりしていました。これも、日本では見られない光景だと思って、少し驚きました。

◇昼食後、鐘路を散策しながら、ショッピング

日本料理を扱った店が多いことに、驚きました。日本料理を真似しているけれど、料理の名前などが惜しいところで間違ったりしていて、面白かったです。店の名前は TERIYAKI なのに、TERIYAKI とは関係ない料理ばかりの店があって、思わず写真を撮ってしまいました。日本料理が、意外と浸透していることが分かりました。逆に、日本の韓国料理も現地の人から見たら、おかしく見えることもあるのかなとも思いました。

◇小腹がすいたので、Ice Berry でカキ氷を

日本のカキ氷と違って、フルーツや小豆やソフトクリームなどを混ぜてみんなで1つのボールから食べました。日本だったら、仲の良い人同士ならともかく、会ってすぐの人とこのように1つの皿から一緒に食べることはあるでしょうか？また、食べる時もそうですが、食べ終わった後もしばし色々な話をしました。甘い物を食べて、楽しい話をして、お腹も心も満足でした。

◇鐘路→教保文庫へ

日本の本を扱うコーナーがありました。文庫本や単行本はもちろん、雑誌も売っていました。日本のファッション雑誌を買う韓国人の女性を見かけて、「本当に売れているんだな」と妙に感動してしまいました。

◇鐘路に戻って、夕食・・・ソルロンタンを食べました

キムチをはさみできるのを見て、ビックリ！でも、包丁やナイフで切るよりはさみで切ったほうが安全で速く切れて、合理的だと思いました。何軒かお店に行っただけで、どこのお店でも食べ終わった食器を下げにくることはありませんでした。だから、ゆっくりと食べられるし、食べ終わった後も落ち着いてじっくり話すこともできました。韓国は、並んでまでして食べるということはないそうなので、それも日本と違うところだと思いました。親睦を深め、お互いをもっと知るきっかけとして、食事が大きな意味を持つと思いました。

キラキラ星グループ活動報告

山田可名、大家浩美、イ・ユジョン、クオン・ウンジ、チン・ジョンヒョン

韓国に旅行ではなくホームステイに来たのだから買い物だけではなく歴史あるところをまわりたいよね、ということで景福宮、仁寺洞、そして対照的に現代的な明洞に行くことにしました。

まず景福宮に着くと、ちょうど門番の交代が行われていました。この交代は一日二回しか行われないのだそうです。門番はその交代の時以外は全く動かないし言葉も発しません。なんでも、軍人がこの仕事をやっているのだそうです。どうりで我慢強いわけですね。景福宮を見学しているときにふと気づきました。周りは歴史的な建造物で、自分は昔にタイムスリップをしたかのように感じるのに、左手先を望めば高層ビルがそびえ立っており、右手奥にはごつごつとした岩肌に見える山が見えました。このコントラストが非常に面白かったです。景福宮は大変広く、時間が限られていたので、到底全部をじっくりとは見ることができず、非常に残念でした。

次は仁寺洞です。いわばここは通りに沢山の韓国を思わせる店が立ち並ぶ浅草のような雰囲気です。周りはほとんど日本人で、日本人向けに商売をしている人も多かったです。私が去年に観光でここを訪れたときにはスターバックスはなかったのですが、今回発見して少し驚きました。やはり時代の流れとともに昔ながらの街も姿を変えていくのですね。

最後はこれまでの二箇所とは打って変わって常に韓国の最先端に行く明洞です。ここは文字がハングルになっただけで、日本と雰囲気はさほど変わらないのですが、やはり日本と韓国で違うのは屋台の多さだと思いました。日本ではもはや見られなくなった光景に韓国を感じました。それと、日本のたとえば渋谷、原宿ほど人がうじゃうじゃしておらず快適に買い物ができそうでした。

☆感想☆

今回のグループ活動を通してたくさんのことを学べたと思います。まず、近代化が進み、多くの高層物が建ち並ぶソウルの都市の中に、景福宮は堂々と存在していました。韓国人によってこの景福宮がどれだけ重要とされているかが感じ取れました。また、仁明洞では、普段私たちが描いているような「韓国」的な雰囲気を味わえました。伝統的なものを店頭でいろいろと見ることができ、今回訪れた街の中で、私にとっての一番のお気に入りの街となりました。そして最後に訪れた明洞は、東京に似たような現代的な町でした。ヒトとモノが溢れかえっていたようにも感じられました。韓国の学生は、日本語で一生懸命私たちに建物などについて説明してくれたり、さまざまなものを紹介してくれたりして本当に感謝の気持ちでいっぱいです。自分たちで実際に体を使って活動する中で、お互いの言葉はもちろんのこと、文化なども教えあうことができました。韓国の文化すべてをすぐに理解することは容易ではないけれども、少しでも多くのことを受け入れていければいいなと思いました。今度は私たち日本人が日本の文化について紹介できる機会が得られたらと思います。このような貴重な体験ができて本当によかったです。

<We are the champion> グループ活動報告と感想

松居真里、藤原裕子、キム・ヒョンオク、キム・ヒョギョム、イ・キウオン

8月26日(木)、私たちはまず鐘路へ行き、お昼に雪濃湯という店でソルロンタンを食べました。汁がとてもおいしくて、その中にごはんを入れて食べました。テーブルに用意されていたキムチをキムヒョギョムさんがハサミで切り始めたことに、日本人側は驚きました。日本では食卓にハサミが出てくることはまずありません。日本ではハサミは紙を切るもの、文房具としてのイメージが強く、そういうものは食事の目についたら少し奇妙な感じがします。しかし長い白菜キムチを取り出して食べやすくするために、韓国でのこの調理用ハサミは非常に合理的な役割をしています。箸ではちぎりにくいし、包丁はまな板がなければ使えないからです。日本で見慣れない光景に最初は意表を突かれましたが、よく考えてみると納得できるし、「ハサミ変だから！」と言っていた自分たちは単に自分の国の文化・慣習のものさして物事を見ていたのだと気付かされました。日常生活のささいなところにもお互いの国の違いを発見できて面白かったです。

その後私たちは仁寺洞に向かいました。仁寺洞は、新しさと古風さが混在するにぎやかな街で、日本人旅行者もたくさんいました。どの店の人も「いらっしゃいませー」ととても日本語が上手なのに驚きました。世界で一つだけの、ハングル文字のスターバックス・コーヒーで休んだ後、おみやげなどを見て、それから明洞まで歩きました。

明洞は洋服のブティックや飲食店がぎっしり並んだ派手な街で、はぐれたら確実に迷子になると思いました。ずいぶん歩き回った後やっと32パルフェにたどり着き、念願の32センチのソフトクリームを食べました。松居真里さんとキム・ヒョンオクさんはバニラ&チョコの味を、藤原裕子さんとキム・ヒョギョムさんは緑茶味を食べました。さすがに32センチものソフトクリームを食べていると、食べている途中で溶けてきてしまい、手がベトベトになりました。けれどもとてもおいしかったです。これで1個1000ウォンは安いです。



その後、携帯電話の通信会社が提供してくれるフリースペースに入って休みました。ここではいすに座って休むことができる他、雑誌を見たりゲームをしたり、DVDを観たりPCを使ったりすることができます。日本にもこのような場所があればすごく便利だと思いました。夕食は、明洞の洋食屋でスパゲティを食べました。さすが韓国人向けだけあって、ミートソースなのに少々辛かったです。レッドペッパーを使っているようです。

最後に東大門へ行き、ミリオレというレディス向けのお店がたくさん入った建物で、「サゲヘジュセヨー」と言いながら買い物をしました。夜遅くにデパートがまだまだ営業しているのが不思議でした。営業時間は朝の5時まで。韓国の人は元気だなあと感じました。

<活動全体を通して>この日一日、私たちのグループはとにかく休んでおしゃべりばかりしていて、見学や買い物がついおろそかになってしまいました。しかしだからこそ、より仲良くなれたし、お互いのことをよく知ることができました。この日みんなでたくさんしゃべってたくさん笑い合ったことは、いつまでも大切な思い出としてこの胸の中にあり続けることでしょう。

グループ活動報告と感想

竹内綾花、岬ノ下裕子、キム・コッポラ、キム・ヒョンジョン、ペ・ユンジョン

まず、仁寺洞に行きました。仁寺洞では、韓国の伝統的な筆筒、韓紙、お土産用のポーチやスリッパなど、韓国ならではの物がたくさん売っていました。お店の人の中には、日本語が多少話せる人もおり、また、実際に、日本人と思われる人がたくさんいて、日本人観光客の多さを実感しました。そのときは特に買い物はしませんでした。モダンアートスタジアムというところで、韓国のお酒フェアがやっており、そこで無料で小麦から作る韓国のお酒造りと体験することができました。木の枠の中に湿った小麦を詰めて行き、小麦の塊をどんどん硬くしていくというものです。これは思った以上に大変な作業で、とても疲れました。硬くしたものをさらに発酵させ、それからお酒をつくるそうです。韓国では、この酒造りを、一般家庭で行うそうです。一緒にグループの韓国のある学生の実家でも、実際にそのような方法で酒造りを行っているそうです。しかし本人は実際に酒造りをしたことがないらしく、他の韓国の学生も始めてだったようです。また、一般家庭で作るとはいうものの、酒を造るには許可が必要だということ、グループ活動報告の後で尹先生が教えてくださいました。飲んでしまえばすぐなくなってしまうお酒ですが、それをつくるには相当の苦労が必要なのだとわかりました。

その後、そのまま歩いて景福宮に行きました。景福宮では、ピクリとも動かない警備の人がたくさん立っていました。動き回る仕事も大変ですが、全く動いてはいけない仕事も相当大変だろうと思いました。景福宮にはたくさんの建物があ、復元されたものばかりでしたが、とてもスケールが大きくて圧倒されました。一通り回るだけで結構大変でした。色彩はとても綺麗で、仙台にある瑞宝殿(伊達政宗公の霊屋)に似ていました(これにはおそらく伊達政宗の生きた時代の朝鮮半島における日本との戦が関わっている、多少複雑な面もありますが)。また、景福宮内にある、児童資料館というところに入り、朝鮮半島の歴史や、キムチの作り方などについて見て回りました。高校のころに学んだ世界史の知識と照らし合わせることができ、とても興味深かったです。

そしてその後は鐘路に戻り、タッカルビを食べました。辛いかと心配しましたが、とてもおいしかったです。

電車によって東大門に行き、買い物をしました。夜に開店して明け方閉店するという問屋は、日本にはないにぎわいでした。あれが毎日かと思うと、本当に驚きです。毎日が祭りのようだと思いました。

その後、チムジルバンに行き、サウナに入ったり、マッサージの機械でマッサージをしたり、お風呂に入ったりと、皆でくつろぎました。服を着たまま、男女一緒にサウナに入るというのは日本にはないスタイルなので、いい経験になりました。中にはカプセルホテルのようなものが設置されており、そこでそのまま朝を迎えました。

全体的な感想としては、韓国人は皆とても活気に溢れていること、韓国の学生がとても親切に案内してくれたこと、韓国人は本当に毎日辛い物を食べていることにびっくりしました。本当に、とても楽しかったです。また韓国の皆さんと会って、韓国のいろいろなところと一緒にいきたいと思いました。とてもいい経験でした。

韓国グループ活動報告書

丸谷麻衣、武藤知衣、ト・ラジ(都羅芝)、チョン・ジン(鄭眞)

<活動ルート>

仁寺洞 (インサドン) …韓国伝統品の店が並ぶストリート

↓

昌徳宮 (チャンドクン) …韓国の王妃が住んでいた宮殿

↓

南大門市場 (ナンデムンシジャン) …韓国有数の大規模市場

↓

明洞 (ミョンドン) …ショッピングモールや露天の並ぶ街

↓

南山タワー…南山の頂上に立つタワー。別名ソウルタワー。

<食>

仁寺洞…カルグクス (魚介だしスープのチャンポンのようなもの)

 ユングクス (カルグクスのスープが豆乳になったもの)

 ポッキ (韓国風カルメ焼き)

南大門…韓国のり、ユジャチャ (ゆず茶)、韓国風もち

明洞…鶏の丸焼き、ヨーグルトアイスクリーム

<文化・感想>

- ・ インサドンは伝統的な町並みを保存しているため、様々な努力がなされている。(例・スターバックスの店名表記は韓国で唯一ハングルを用いている)このような街の保存形式は、日本にも通じる場所がある。(例・金沢、京都、飛騨高山 等)
- ・ チャンドクンは昔の建物にもかかわらず、色使いが非常に豊富で鮮やかであった。これは日本の伝統的建物とは大きく異なる点である。また、必ずガイドを伴わないと入場できないようになっていたが、日本語ガイドの数が英語ガイドの数より多かったのが印象的だった。
- ・ 南大門は雰囲気が非常にパワフルだった。様々な店が所狭しと並んでおり、客引きの声もあちらこちらから飛んできた。日本語が巧みな人が多かった。こちらが言葉を何も発していないのに、日本語で話しかけてくる人が多くて驚いた。(外見のみでわかるのだろうか?)

すいかグループ活動報告と感想

佐藤理保子・鈴木友里子・ペ・ミウン、ファン・ジョン

* 活動報告

梨大→仁寺洞→ソウル駅→サウナ 解散

まず地下鉄で梨大駅へ。スターショットというとても綺麗に撮ってくれる写真屋で記念撮影をする。その後梨花女子大へ。構内を散策する。ちょうど九月卒業の学生の卒業式の日で記念写真を撮っていた学生二人に頼んで、一緒に写真を撮ってもらおう。キャンパスは広くて、クラシカルな建物がとても素敵だった。韓国側の学生からは韓国の大学制度や学生生活について話してもらうことができ、とても有意義であった。散策後、レッド・マンゴーという有名なお店でヨーグルト味のアイスが載ったビンスを食べ(とてもおいしかった。)、写真を受け取り仁寺洞へ。

仁寺洞ではみやげ物の店を散策。韓国の名物やおすすめの土産物を教えてもらい、大変参考になった。日本人が多く、いかにも日本人観光客を意識したと思われる商品(冬のソナタのグッズなど。)もみられ、また日本語のできる店員さんもいた。梨大の周辺では若い人たちをターゲットにした流行の最先端を行く商品や店が多かったが、こちらは韓国の伝統的な商品が多く、その両面に触れることができた。屋台でトッポッキを食べ、バスでソウル駅へ。

ソウル駅舎は二つあり、古い建物は日本の植民地時代に建てられたもので、現在は使用されておらず、菊の彫刻があって、日本を象徴しているとのこと。そのころの建物がまだ残っていることを知って大変驚いた。韓国に来てはじめて、日本がかつて韓国を統治していたことがあったという事実を体感した。新しい駅舎はできたばかりのソウルと釜山を高速で結ぶ、日本でいう新幹線のような電車の発着駅で、近代的でとても綺麗だった。駅近くのサウナへ。サウナで汗をかいたあと、日本人学生二人は垢すりをしてもらう。サウナを出て、解散した。

* 感想

★梨大では若者の文化に、仁寺洞やサウナでは韓国の伝統的な文化に触れることができました。しかしその伝統的な中にも、現代的な要素が混じって、若い人たちに引き継がれているという部分も感じられることができました。例えば素敵な洗練された現代的なお店がたくさんある一方で伝統的な料理を売る屋台がたくさん残っていて、若いカップルや子供達が買って食べている。サウナはジムやインターネットが完備されていた。韓国に行って一番驚いてまた慣れなかったのはお風呂です。お風呂場と言う場所がなくシャワーのみで浴槽がない。それで月に何度かサウナに行ったら垢を落とすとのことを聞き、家にお風呂を作った方が効率的じゃないかと思ったが、サウナに実際に行ってみると、なるほどと思うことがあった。それは韓国では人間同士の付き合いやつながりがとても大事にされているということと関係しているのかもしれないと思う。大勢で何かをする、食べたり遊んだりすることが多いことや、先輩後輩の親密な関係(韓国の学生は自分より年上ならオンニ「お姉さん」と呼んでいた。)からも言えるかもしれません。裸同士の付き合い、体も心も裸にして付き合う、という文化の現われかもしれないと感じました。

☆韓国の学生と行動を共にして一つ気付いたのは、携帯電話に所かまわず、友達と一緒にでも、話

していても地下鉄の中でも食事中でも出ることです。日本なら友達に一言断って出るとか、緊急でなければその友達と別れてからかけなおすなり、いま一緒にいる人のことを考えて行動しますが、そういうことはありませんでした。最初は失礼だなとか不快に感じました。でも韓国ではそういう行為が決して失礼にはならないということがわかり、せつかく電話をしてくれた人への礼儀なのかもしれないと考えられるようになりました。文化の違いには必ず理由や其の国での考え方や習慣風習があってとても難しいと感じました。ただ、自分の国とは異なる文化に遭遇した時に、最初から否定するのではなく、たとえ不快や戸惑いを感じても、相手の行動の意味を考え、また相手には相手の文化があるということを年頭において、理解して乗り越えていくことが重要だと思いました。



ワークショップでのコラージュ作り



できあがった各グループのコラージュ



グループ活動報告会

3. 民俗村観光



民俗村にて



民俗村へ向かうスクールバスの中で

5日目には、同徳のスクールバスで、韓国の歴史、伝統、文化を知ることのできるテーマパーク、民俗村（ミンソクチョン）を訪ねました。韓国の学生は日本語で自国の文化を紹介し、日本の学生は異文化理解の時間となりました。

4. 閉講式・歓送会



大学路のレストランで閉講式・歓送会

5日目の夕方は、若者の街「大学路（テハンノ）」のイタリアン・ピザのお店で閉講式・歓送会が持たれました。5日間寝食を共にする中ですっかり仲良しになった日韓の学生たちは、ピザを食べながら思い出話に花を咲かせました。

第3章 セミナーを終えて

1. 参加学生の感想

今回は第1回目の日韓大学生国際交流セミナー。ここで参加者の感想を読みながら、よかった点、今後改善すべき点を考えます。

<日本の学生>

1. 事前の準備で、何か困ったことや、わからなかったことがあれば教えてください。

A: 行く前の段階では「ワークショップ」というものが何をやるのかよくわからなくて、ただ自分が持っている雑誌やはさみを持って行っただけで、貼るとわかっていれば、もっと適した雑誌を持って行ったのになあ、と思いました。

B: お金をいくらぐらい持って行くべきか迷った。

C: ①お土産を何にすればよいのか。何が喜ばれるかということ。

②お金がいくらぐらい必要か(両替すればよいか、物価の差など)。

D: ステイ先の情報が皆無に等しかったので、お土産や自分がどこまで日用品を持っていけばよいのかわからなかった。

L: どんな服装で行くべきか悩んだ。ノースリーブは嫌がられないか、など。結論としては、同徳の学生も着ていたし、問題なかった。

2. お土産は何を買いましたか。反応はどうでしたか。

A: 「江戸風鈴」と書いてあるガラスの花模様のかわいい風鈴と、お寿司の携帯ストラップを買ってきました。両方すごく喜んでくれて、風鈴はパートナーの部屋に飾り、携帯ストラップはオクサンのお姉さんが使ってくれています。

B: 韓国にもっていったお土産は、ちりめんのポーチと鏡、和紙のうちわと、小さい駒です。

C: 和菓子・浴衣・手ぬぐい 午前のプログラムで浴衣を取り上げたグループがあり、グッド・タイミングで喜んでもらうことができた。お菓子もおいしかったという感想をいただいた。

D: かりんとう、扇子、アクセサリーを収容する小物。大変喜んでくれた。

E: 東京ばなな おいしいと言ってくれました。甘すぎないかと聞いたら大丈夫と言ってくれたのですが、本当のところはわかりません…。

F: ひよ子 おいしく食べてもらえました。

G: 千代紙でできた箱に入ったおはじき、ちりめん素材の中着と鏡のセット、和風の柄の大判ハンカチ、じゃがりこ肉じゃがが味、柿ピー、せんべい
大変きれいだと喜んでもらえました。じゃがりこはかなり好評でした。

I: そば、和菓子→喜んだ。

K:地酒をもっていきました。よろこんでくれました。

L:甘みの強くないクッキーの缶詰と、招き猫をモチーフにした携帯ストラップ、けん玉。けん玉は、妹さんにうけた。

3. 空港までは何で行きましたか。

京成スカイライナー:2名 京成:7名 JR:2名 リムジンバス:1名

4. 韓国に着くまでの間に何か問題はありませんでしたか。

B:成田エクスプレスの切符が当日の朝買えるのかどうか(←家を出る時間が早かったのでみどりの窓口が開いてないかもしれない)前日の夜になって気になって、いろいろ調べて面倒きかった。結局、朝早くて切符買うのにあたふたするのも嫌だから夜に買いに行った。

D:ライナーのチケットが売り切れていた。

L:京成線で一駅寝過ごしました。

5. ホームステイ先で何かトラブルやわかりにくいことなどはありませんでしたか。

B:一人暮らしの子のところにホームステイしたということもあり、シャワーがかなり狭くて困った。一人になれる時間が全然なかったので、始めは結構疲れた。

E:個人的に気になったのは、洗濯はいつしているのだろう、ということ。特に生活に支障をきたすような事はありませんでした。

G:シャワーがトイレと一緒にしているものだったので、最初は使い方にかなり戸惑った(ぬらしていいのか?など)

L:入浴の仕方が日本とだいぶ違ってとまどった。湯船に入れないのはすこしつらかった。

6. ホームステイについての感想をお聞かせください。

A:毎日とても親切に頂いて、本当によかったです。ホームステイ先の韓国人と皆ペアで仲良くなるので昼間も誰ももれることなく仲良くなれるし、ホテルに滞在するよりずっと良い案だったと思います。

B:ほとんど毎日夜中まで遊んでいたの、帰ってからは寝るだけだったから、ホームステイしたという感じがあまりしなかった。でも家の中でいろいろ気を遣ってくれたので、嬉しかった。帰ってからは2人だけで、気楽なことは気楽だったが、家族がいる家にステイした人たちの話を聞いて、うらやましいなあとも思った。

C:パートナーもご家族も多忙ななか受け入れてくださって、迷惑になったのではないかとずっと心配でした。ただホテルにとまっていたのは全く味わえない、韓国の家庭の中を見ることができたし家庭生活を体験することができました。

D:短い期間ではあったが、全日程ホテルに泊まるより実際に韓国人の家庭に滞在できてよかった。

E: 家族の皆が温かく迎えてくれて本当に楽しかった。私が韓国料理を好きだということでいろいろな料理を出してくれました。辛い料理は大好きなので、全く辛い料理に動じず毎回毎回たくさん食べていたら、家族は大変うれしそうにしていました。

なるべく家族の生活に合わせようと手伝いは積極的にしたし、遅くまで寝てていいといわれたのですが、皆と一緒に起きて一緒に朝ごはんを食べるようにしました。お父さんもお母さんも仕事で帰宅が遅かったため、朝一緒に早く起きることで、コミュニケーションをとる時間を持てたので良かったなと思っています。

それと、家族の韓国語だけの会話を大体は聞き取れて会話に参加できたので、言葉がわからないために生じるような疎外感はありませんでした。私はそういうことでストレスがたまりがちな人なので、そういうことがなかったというもあり、大変快適でした。

F: 友達と一緒に行動していたので、家にいる時間が短かったです。しかし、最後の夜にプレゼントを渡したり、写真を見たりして過ごしたのがとても印象的でした。朝食は、お母さんの手料理でしたが、お母さんはいつも料理が口に合うかを考えてくれて、私が食べやすい味付けにもしてくれました。私は、韓国語ができないのでお母さんに十分感謝の気持ちを伝えることができなくてものかしい気持ちがしました。

G: 非常に有意義だったが、ほとんど寝に帰るだけ、というような状態になっており、ファミリーと一緒に過ごす時間が本当に少なかったのが残念。もっと家族で過ごす時間をとれるよう、長期間滞在したかった。できればまた改めて韓国に会いに行きたい。

H: とても歓迎して下さい本当に良かった。

I: 家族もみんな優しくかった。あまり家にいることはなかった。

J: 生活の仕方について異なることかいろいろあってびっくりすることもあったけど、とても楽しく過ごせたとします。

K: 毎日夜まで外出したので、寝に帰る感じでした。

L: 家族みんな、本当に優しく迎えてくれた。特に、おばあさんは、戦争体験から日本に対して嫌な感情をお持ちなのにも関わらず、日本人の私に心からの笑顔で接してくださいました。

7. 日本語・日本文化エクステンジプログラムについての感想

A: もう少ししっかり授業の内容を考えればよかったと思います。プリントも3人して忘れてくるし、ちょっと浮かれすぎていたと思います。

B: 自分たち2年生は、レジュメを忘れてきてしまって、かなりめちゃくちゃになってしまって申し訳なかった。1年生は準備をきちんとしていてとてもわかりやすかったし、進捗がスムーズでよかった。4年生はユーモアが溢れていて、聞いている側としてもとても楽しかったが、少し4年生間での連携に欠けているような気もした。

C: 日本語を教えるというよりも日本文化を教えるという形になってしまった。韓国側の学生の日本語のレベルが不明で、反応も確かめられなかった。もっと相手に即したプログラムを考えるべきであったと思う。

- D:もっと時間をかけて準備をしたかった。全員で集まって話し合う暇や、練習する余裕が全くなかったので少し心残りがある。
- E:期間は二日くらいでちょうど良かったのではないのでしょうか。
- F:思ったより日本語の能力が高かったので、私たちの授業は簡単すぎたのではないかと思いました。ディスカッションでは、学生の視点から意見を聞けたので、理解を深めることができました。
- G:韓国に行くための準備、打ち合わせがここまでできないとは思っていなかった。何とか形にはできたのでよかったが、CD-R が使えなかったのはかなりの痛手だった。
- I:何をやったら良いかとまどったけど、何とかできてよかった。
- J:とこのグループの発表も工夫していてとても良かったです。
- K:4年生のようにしっかりした授業をしたかったです。
- L:同徳の学生の日本語のレベルが(個人差はあったけれど)かなり高く、日本人学生側の授業は全体的に日本文化の紹介に重点が置かれていたように思う。授業の最後のディスカッションは、日本側韓国側で結構意見が異なることが知れて、有意義なものになったと思う。

8. 韓国語・韓国文化エクステンジプログラムについての感想

- A:あいさつや、ドラマの台詞や、歌などで、韓国語がとても親しみやすくなりました。授業がおもしろく工夫されていて感激しました。
- B:韓国人の学生は物怖じする人が全然なくて、驚いた。とくに演技などはリアルでかなりわかりやすかった。また、グループの中で韓国語の練習をするとき、韓国の学生が丁寧に教えてくれて、とてもわかりやすかった。皆親切でよかった。また、韓服を着られたのが嬉しかった。日本人学生のためにいろいろ考えて尽くしてくれて、本当にいい人たちだと思った。
- C:初歩の会話を教えてくれて大変その後のグループ活動に役立ちました。一生懸命準備をした上で授業をしてくれていて、もっと私たちも準備や検討を十分にすべきではなかったかと思う。
- D:大変工夫がされていて感心した。アクティブな内容で参加できて楽しかった。
- E:十分に準備をしてくれたのだな、と感じるところが多々あり、うれしかったです。特に韓服の授業は皆に着せてくれて本当に良い思い出になりました。
- F:参加型の授業で、楽しいプログラムでした。韓国語初心者对我来说は、少し難しいと感じるところもありましたが、1つ1つ丁寧に教えてもらえてなんとかついていきました。最後の授業で、韓服を着ることができて本当に貴重な体験でした。
- G:非常に興味深く受けることができました。レベルも程よく抑えられており、とてもわかりやすかった。
- H:もう少し準備をしっかりしたかった。
- I:とてもたのしかった。(歌、チマチョゴリが特に。)
- J:楽しく進めてくれてよかったし、特に韓服が着れたのがうれしかったです。
- K:すぐに役立つことばかりでした。
- L:よく準備されていて、おもしろく、ためになる内容だった。授業で習ったことをその後の街中でもすぐに体験できたと、身になった。

9. ワークショップ、グループ活動についての感想

- A:26日のグループ活動は本当に本当に楽しかったです。私たちのグループは見学や買い物をつい疎かにして、一日中とにかくしゃべってばかりいたけれど、それが逆に互いの距離を縮めることになったし、かけがえのない思い出ができました。
- B:はじめは「面倒くさいなあ」と思っていたが、コラージュやあいこでじゃんけんなどは、やってみたらなかなか面白かった。野外活動は、韓国の学生がいろいろなところで通訳や翻訳をしてくれて、かなりありがたかった。
- C:グループのメンバーとはとても親密になることができ大変楽しかった。ただ、市内の散策はあと一日ぐらい余裕があればよかったかなと思う。
- D:グループ活動は、勉強というより友達同士楽しくわいわいという感じで観光気分でした。
- E:半日だけの観光は少なすぎます。やっと三つまわった感じでした。
- F:実質的に、活動する時間が1日だけだったので少し負担を感じました。また、報告会の準備の時間がなかなかとれなくて苦労しました。しかし、私のグループはチームワークがよくて最後はよいものに仕上がりました。みんなの力が一つに結集したと感じました。
- G:しっかりソウル市内を回ることができ、非常に楽しかった。
- H:とても熱心にやってくれてよかった。
- I:切りぬきは4人ともきがそろって、まとまりのあるもぞう紙ができた。
- J:グループの人ととても仲良くなれたし、お互いのことをいろいろ知れました。韓国の街をみんなで歩いて回ってとても楽しかったです。
- K:ワークショップは終わったらあともよく分からなかった。
- L:限られた時間内で内容の濃い活動ができたように思う。もっと時間があればなあという印象が残った。

10. 報告会に参加しての感想

- A:他のグループは互いの国の文化・習慣の違いについてよく考察していてなかなか味のある感想を述べていたのに、私たちのグループはあまり深く考えるということがなかったのでその点は反省しています。あと韓国の学生一人にパワーポイントの編集をやってもらったのも大変だったろうし悪かったなあと思います。
- B:グループ野外活動報告も、同じく面倒くさいと思っていたけど、他のグループの活動を聞いて、残りの滞在中に行きたいところが見つけられたり、自分が気づかなかったことに気づいたりして、結構面白かった。
- C:同じ場所に行ったグループでもそれぞれ感じたことが違って、様々な感じ方や見方があるということに気付くことができました。また行くことができなかった場所について様々な情報が得られて参考になった。しかし、もっと簡略化して、せつかく韓国にいるのだから、現地でしか行けない所とか見られないものを見る、ということに時間を使った方がよかったと思う。
- D:それぞれ工夫した発表はとてもおもしろかったです。

E: 報告会のための準備をする時間が全く設けられていなかったもので、そのことが時間のなさに余計に拍車をかけました。皆活動が終わって徹夜で準備をしていました。準備の時間が二時間くらいほしかったです。

F: どのグループも同じようなところに行ったけれど、それぞれ感じたことは違って、それを聞くことができ自分も考えさせられました。

G: 韓国の学生がパワーポイントを使いこなし、あっという間に仕上げてしまったことに驚いた。しかし、市内を見て回った次の日の午後に発表、というのはかなり厳しかったのではないかな。(しかも午前中に教育プログラムがある状態で)せめて大学でじっくりまとめる時間をとってほしかった。

H: 色々な人の感想を聞けてよかった。

I: それぞれのグループの個性がでていて良かった。

J: それぞれの工夫した発表はとてもおもしろかったです。

K: みんな同じ所へ行ったけど、見えたものや思ったことは違うと思った。

L: 準備時間が極めて少なかったのにもめげず、楽しかった勢いでなんとかできた。最初は、報告会にとる時間をグループ活動に使えたらいいのと思っていたけど、ほかのグループがどんな体験をしてどう感じたかを知ることによって視野が広がったので、やってよかったなと思った。

11. 同徳女子大、または先生方・学生の歓迎などについての感想

A: みなさんととてもあたたかく迎えてくださってありがとうございました。自己紹介をするまで自分の相手が誰かわからず、緊張しました。

B: 皆さん凄く日本側を歓迎してくれて、嬉しかった。初めて会った人に心から親切にするのは、日本人ではあまりないのではないかなと思った。

C: キャンパスはとても綺麗で、教室の設備も大変よかった。学生の皆さんは温かく十分すぎるほど歓迎してくれて、自由行動の時間もすべて付き合ってくれた。

D: 先生方は日本語が大変お上手で感心した。日本より厳しい感じがした。また学生たちは生まれた国は違うけど、育った環境や感性は似ているんじゃないかと思った。よく食べよく遊ぶ、日本の女子大生と同じ印象を受けた。

E: 皆本当に親切に、温かく迎えてくださいました。韓国側の学生は早く日本人と親しくなりたいという気持ちがあふれていて、こちらとしても初対面の人とも積極的に話をできるようなウエルカムな雰囲気でした。

F: 温かく迎えてくださって、感謝しています。私は韓国語は分かりませんでしたが、言葉ではなく心で会話ができたように感じました。言葉が通じなくて苦労したと思うことは1つもありませんでした。

G: 非常によくしてくださって感激した。また、日本語のレベルの高さにもとても驚いた。

H: 思っていた以上に歓迎してくれて感激した。

I: 歓迎してくれた。日本語が上手で驚いた。

J: 歓迎の度合がすごくてびっくりしたけれどもとてもうれしかったです。

K: 学生がかなりもてなしてくれて、かえって申しわけなかった。

L: 初日からどンドンいろんなところにつれて行ってくれた。同徳は学生同士がとても仲がよくて、放課後に出かけるときもいつも大人数だったから、自分のホームステイ先の子だけでなく、同徳、お茶大含めて、みんなと仲良くなれたのが本当によかったと思う。

12. 毎日の通学は何で行いましたか。いくら・何分ぐらいかかりましたか。

30分以内:1名 30～60分:7名 60～90分:2名 無回答:2名

1000ウォン以下:6名 1000～2000ウォン:1名 2000～3000ウォン:1名 無回答:4名

地下鉄・バス:10名 徒歩:2名

13. 民俗村観光についての感想

A: 景色がきれいでした。伝統的な結婚式が見られて貴重な体験ができました。皆で乗り物に乗って遊べてとても楽しかったです。車みたいなのに乗って自分で運転するアトラクションで、皆で一人の学生に突っ込んで攻撃したのがおもしろかったです。

B: 時間が短くて、あまりゆっくりできなかったのが残念だった。でも皆さんと一緒に韓国の伝統文化に触れられて、楽しかった。乗り物に皆で乗ったのも、かなり面白かった。

C: もう少し時間をかけてじっくり見たかった。しかし、韓国の伝統的な生活や文化に触れることができて大変楽しかった。前日まで午後のワークショップでのグループで行動することが多かったのので、それ以外の学生となかなか交流できなかったが、民俗村観光ではたくさんの韓国側の学生と交流することができてよかった。

D: 韓国人の学生も初めて行くという子が多くて一緒に観光できて良かった。都会だけ見るのではなくて、ああいう場所を見学できて有意義だったと思う。

E: 最初はつまらないと聞いていたので期待していなかったのですが、韓国の歴史、文化が学べて、本当に興味深かったです。三時間では到底時間が足らなかったのので、ぜひまた個人的に行きたいと思いました。

F: 短い時間でしたが、楽しく過ごせました。伝統の結婚式を見ることができてよかったです。

G: 韓国らしいものにたくさんふれることができて、とてもよかった。市内観光やショッピングだけでは日本語も飛び交うし、なかなか「韓国らしさ」に触れることができない。そういった中、非常に良い体験ができた場所だと思う。伝統的な結婚式の再現に立ち会えたこともとてもよかった。

H: 作られたものであるけれど、韓国を理解する助けの1つになった。

I: 食堂の雰囲気がおもしろかった。

J: 韓国の者の人の生活の様子が知れてとてもいい経験になりました。乗り物はこわかったです。

K: とてもよかった。でも、この日はみんな疲れがピークだった。

L: 日本でも東京の街中では歴史的な建物などは見られないが、韓国も同様だったので、民俗村では、近代化したビルなどばかりを見ていたのでは知ることのできない韓国特有の空気を感じることができた。軍人さんが大勢観光に来ていたのには驚かされたけれど。

14. ホテルについての感想

- A:きれいで、快適で、ホテル自体には不満はありませんが、地下鉄の駅から近いホテルだとなお良いと思います。
- B:とってもキレイだったし、寝心地が良くてよかった。支配人が面白かった。
- C:綺麗で設備も大変良かった。毎日ここに泊まってたかったと内心思いました(笑)。
- D:綺麗で新しく申し分ない。しかし支配人がうるさい。
- E:新しくきれいで設備も整っており、文句のつけようがなかったですね。
- F:よく休めました。
- G:非常にきれいで快適だった。支配人がちょっと独特な人だった。
- H:きれいでよかった。
- I:とてもきれい。ベッドが気持ちよかった。
- J:すごく居心地がよく、特にお風呂は最高でした。朝食もおいしかったです。
- K:良すぎと思います。もう少しランクが下でも大丈夫です。
- L:ホテルの従業員の人が日本語上手で親しみが持てた。ホームステイとはまた違った気分が味わえた。

15. 大学でのプログラム以外の自由時間はどのように過ごしましたか。感想は？

- A:毎日いろいろなところに 12 人くらいで遊びに行きました。一日目は荷物を置いてから皆でご飯を食べに行き、ボードゲームのできるカフェで遊び、二日目は歓迎会のあと皆で漢江に遊びに行き夜遅くまで騒ぎ、三日目は皆で東大門で買い物をしたあと銭湯に行き、四日目は韓国の学生と二人で、梨大周辺で買い物をしました。五日目はホテルにチェックインしたあと皆で飲みに行き、六日目はまたいろいろなところに行きました。
- B:毎日いろいろなところに 12 人くらいで遊びに行きました。一日目は荷物を置いてから皆でご飯を食べに行き、ボードゲームのできるカフェで遊び、二日目は歓迎会のあと、皆で漢江に遊びに行き、夜遅くまで騒ぎ、三日目は皆で東大門で買い物をしたあと銭湯に行き、四日目は韓国の学生と二人で梨大周辺で買い物をしました。五日目はホテルにチェックインしたあと皆で飲みに行き、六日目はまたいろいろなところに行きました。
- C:ほぼ毎日韓国側の学生に観光に連れて行ってもらいました。
- D:ステイ先のこと、ショッピングをしたり、食堂にご飯を食べに行ったり、ドライブしたりした。韓国はショッピングセンターが大変遅くまでやっているの、学生の活動時間も夜遅かった。
- E:一日目;そのまま家に帰り、おしゃべりしていました。
二日目;ある学生のステイ先のパートナーの友達の妹(高校生)が演劇に出演するというので、明洞に私のステイ先のパートナーと4人で見に行きました。そこで一緒に見たパートナー2人の友達で、韓国に語学留学中の在日の人と、ドイツの人と劇の後一緒にご飯を食べてぶらぶらしました。劇のタイトルはボンスニオンニで、学生の劇にしてはレベルが高く、内容も面白かったです。その後の留学生と一緒にご飯を食べたのも、お互いのつたない韓国語で、韓国語を共通語とし

ておしゃべりできたことが非常に面白かったです。

三日目;パートナーのお姉さんと、その旦那さんがジョンソンにドライブに連れて行ってくださいました。ドライブ自体も面白かったのですが、パートナーのお姉さんとお義兄さんはまだまだ新婚だったこともあり?非常にラブラブで見ているほうがはずかしかったです…。

四日目;放課後に戦争記念館に行こうとパートナーと話していたのですが、既に閉館してしまい行けなかったの、ソウル駅のロッテマートに行ってお土産の菓子やミスカル等々大量に買い込みました。広いし安いし、東京ではあんな広いものが都会の真ん中にできるなんてありえないな、と思いました。

F:10人くらいで食事をしに行ったり、ゲームをしたり、川岸でおしゃべりをしたりしました。皆でわいわい、とにかく楽しく過ごしました。日本では、大勢で集まって遊ぶことはないの、本当に楽しかったです。

G:毎晩遅くまで様々なところに連れて行ってもらった。自由時間が少ないことも考慮して、買い物に費やす時間が足りなくなったら気の毒だから、と、南大門や東大門、明洞などショッピングに費やす時間が多かった。プログラム自体が4時までで、その後なかなか観光目的の場所にいけないことが残念だった。プログラムは半日にする日があってもよいのでは?

H:ステイ先の子と遊びました。とても楽しかったです。

I:夜まで 10 人くらいで明洞、東大門、コリア大学に行った。こんなに遊べると思っていなかったの、うれしかった。

J:本当にいろんな所に連れて行ってもらいました。観光したり買い物したりとても楽しかったです。

K:毎日いろんな所へ外出しました、うちにいるだけより全然よかった。

L:とにかく街へ出て、いろんな店に入り、いろんなものを見た。ゲームバーみたいのがある、日本でもやればカラオケ感覚で流行りそう、と思った。原宿っぽいところ、新宿っぽいところ、それぞれの繁華街ごとにそれぞれの魅力があった。

16. 韓国から日本に帰国するにあたり、何かわかりにくいことやトラブルがありましたか。

A:財布を落としたことだけ気がかりで、健康保険証が悪用されないことを祈りますが、もし何かあった場合にちゃんと対処できるのかどうか不安です。

L:テロがあった直後だったらしく、空港でのチェックが厳しくなっていたし、少し不安な気分させられた。

17. 何時ごろ自宅に到着しましたか。

10~11時:3名 11~12時:6名 12時~:1名 無回答:2名

18. 今回のセミナーに参加しての全体的な感想

A:言葉では表しきれないほど今回のセミナーは自分にとって大切な思い出になっています。日本には我慢が美德とされるようなところがあり、感情を思いきり表に出すことは少ないですが、今回韓

国の人のストレートな感情表現に触れたことで、ありのままにいることの気持ちよさ、なつかしさ、素晴らしさを感じ、素直に、人はまだまだ温かい、と思いました。

B: 韓国の皆さんと話したことも、いろいろなところへ行ったことも、とても楽しかった。日本人と韓国人の違いも肌で感じる事ができた。韓国の皆さんにも、日本のいろいろなところへ行って、日本の文化を肌で感じてほしいと思った。

C: 拘束時間が長く感じられた。もっと自由時間や市内を観光する時間が欲しかった。

D: 夢の中のような一週間でした。韓国は始めて訪れたので、いままでテレビの中、雑誌の上でしか見たことがなかった世界に自分が行って、ホームステイできるなんて幸せでした。一人では絶対行く勇気はなかったし、実際皆と行けて思い出がいっぱいできました。

E: 先生から日本語のレベルは相当高いと聞いていたので期待していたら、私のステイ先のパートナーにはあまり通じなかったです。ある学生のステイ先のパートナーもそうで、彼女が韓国語ができないのでお互いの意思疎通に苦労していたようです。日本人の学生が日本語を話すのが毎日(じれったい)と言っていました。それがはたから見ている面白かったです。私は半々くらいを使い分けていたのですが、わからない言葉を説明するときに、皆でジェスチャーしたり、易しく言い直したり、試行錯誤して会話をしました。お互い理解できたときの喜びは言うまでもなくすばらしかったです。そういうことを通じたからこそ急速に仲良くなれたのもあると思います。いい体験ができました。

F: とにかく毎日が発見の連続で、やることすべてが新鮮でした。ホームステイをすることで、より深く異文化に触れることができたと思います。スケジュールは多少きついところもあったけれど、中身の濃い内容だったのでどれも楽しい思い出になりました。同徳女子大学の皆さんが日本に来た際には、また一緒に楽しい日々が過ごせたらと思います。

G: とても有意義な経験ができたと思う。文化の違いにもしっかり理解しながら触れることができたので、自分の中での常識の壁のようなものも一つ崩すことができたと思う。また、好奇心も非常にくすぐられ、韓国語習得の意欲も増してきた。ただ、本当に残念なことに時間が明らかに足り無すぎた。また改めて自分で訪れたいと思う。

H: 貴重な体験ができて参加して本当によかった。

I: 5泊6日なので、短いかと思っていたが、とても充実した生活ができた。韓国の人たちはみんな優しくておもしろくて本当に楽しかった。参加してよかった。

J: 初めての海外ではじめは緊張していたけれど、とても楽しくて、最高の時間が過ごせました。本当に貴重なこのような体験ができて幸せに思います。

K: 人に接する時、国に関係なく個人として接したいと思った。

L: 個人的に旅行したのでは味わえない体験をたくさんさせてもらった。ホームステイや大学でのセミナーもそうだけど、街中を観光するのでも、同徳の学生が常に一緒にいてくれたおかげで、日本人だけで行動するのはまた違った見方ができたように思う。

19. セミナーの開催時期、日数などについてどう思いますか。

- A: 時期はちょうど良いと思います。日数は、本当はもっともっと皆と一緒に時間を過ごしたかったのですが、毎日あの睡眠時間の少なさが続くと思うと、体力がもたないので、ちょうど良かったかもしれません。疲れたけれど遊んでいるときは楽しくて疲れを感じませんでした。韓国人は元気です。
- B: ともに適当だと思う。特に日数は、体力のある人はもう少し良かったかもしれないが、私は自転車の空気もひとりで入れられないぐらい体力がないので、6日間ぐらいがちょうど良かったと思う。でも、体力のない私が6日間も休みなしで遊べたことが今でも不思議だと思う。でもあと1日ぐらいはあっても良かったかも。
- C: 日本側の学生にはあと一ヶ月夏休みがあるので、帰国しても十分休むことができますが、韓国側の学生達は九月から授業が始まると聞いていたので、いまごろへばっていないか、新学期に支障がないか心配です。日数はちょうど良かったと思う。
- D: 妥当。ただし日数は多くても良いかなと思います。
- E: 短いです！あと二日あれば…。スケジュールが詰まりに詰まっています、行動しづらかったです。大学の単位にかかわるような研修ではないので、もう少し自由時間を増やしたほうがいいのではないのでしょうか。
- F: セミナーのスケジュールですが、韓国に行ってからすぐにホームステイをするのではなく、1泊ホテルに泊まって疲れをとってからホームステイをするほうがよいと思います。
- G: 時期的には適切だと思う。日数は明らかに少なすぎた。
- H: ちょうどいいと思いました。
- I: 時期・・・○ 日数・・・もう少し良かった。(7日くらい)
- J: すこし暑かったけれど、ちょうどよかったです。
- K: 丁度いい。
- L: 今回くらいでいいと思う。帰る日は名残惜しくて、もっといたいと思ったけれど。

20. 韓国についてどのようなことを感じましたか。

- A: デパートやブティックが朝の5時くらいまでやっているのには驚きました。夜の漢江でおじさんやおばさんたちが遊んでいたり、子どもが起きていたりするのもとても驚きました。皆夜遅くまで活動していて朝も早く、あの体力は一体どこから来るのでしょうか。本当に元気な国です。
- B: 毎日お祭りみたいだと思った。日本は夜遅くまでやっている店は、お水系か飲み屋ぐらいかゲーセンぐらいしかないので、どのお店も夜中までやっていて、すごいと思った。韓国人は元気だなあと考えた。
- C: ①人々がとてもマイペースでのんびりしている。なのに地下鉄に乗ってみると降りる駅の一駅ぐらいい前から出口に立って待っているし、バスは乗ったら客がすり革につかまる前にすぐ発車するなど、一方では気が早く、その矛盾がおもしろいと感じた。ちなみにバスは運転が荒くてとても怖かったです。

②車と人が多い。

③夜が遅くて朝が早い。夜10時とか11時とかに普通に小さな子供が家族と一緒に地下鉄のなかに居て驚いた。日本ではありえなし、親が絶対に注意される。

④上下関係をはっきりしている。同じ学年でも年が上だったら「オンニ(お姉さん)」と呼んでいた。日本の大学では浪人していても学年が一緒ならタメロがふつうだと思うので、驚きました。また、本当の姉妹ではないのに、「オンニ」を使うところから、人間関係の親密さというか濃さを感じました。

D:一番驚いたのは思ったよりも、大変先進的であること。日本にいるような感じだった。しかし貧富の差が激しいのか、町の中でも一歩出ると危ないようなところがあったりしてそこは日本と違って油断してはいけないと思った。後、韓国の学生については市場で値切ったりするところに韓国人のお国柄が良く出ていて、とても勢いがあるなと感じた。

E:先生の言葉どおり、情が深い！本当に親切でした。それと、やはり大陸の人だからか、皆細かいことは気にしないタイプのように思えました。せかせかしておらず、のんびりした印象を受けました。

F:礼儀正しくて、親切な国だと感じました。

G:「何かが違う」と常と感じていた。(悪い意味ではなく)似たような民族で、日本語が街中にあふれていても異国を感じさせる、不思議な国だった。

H:みんながとてもフレンドリーで親しみを感じた。

I:店員さんも日本語が上手。みんな仲が良い。

J:人も含めて、あらゆる点で日本とは異なる点が多々あり、少し戸惑うこともあったけれど、受け入れられることが多かったように思います。とてもすてきな国でした。

K:思っていたより汚い所も多かった。

でも、人間関係がむずかしいのはどの国でも同じだと思った。

L:韓国人は体も大きいし、どんなに辛いものも平気で食べてしまうし、自分の意見をはっきりと主張できる、なんだか頼もしい人たちだった。それに優しくて包容力があると感じた。

21. 言葉、文化の問題はありませんでしたか。

A:言葉は大問題でした。皆普段から韓国語でばかり話しているし、それでも大勢でいるときは誰かしらが訳してくれたので大丈夫でしたが、韓国のパートナーと二人になると何も通じなくて結構困りました。しかしそれが逆におもしろかったです。何でも通じてしまうよりも、伝わらないもどかしさを通して言葉の必要性を学びました。そして言葉がなくても身振りや態度、表情、行動で伝わることもある、ということも学びました。さらに自分の日本語の言葉遣いの汚さも実感し、気をつけようと思いました。

B:私はホームステイ先の子が、とても日本語が上手だったので、特に言葉の問題はなかった。文化の違いも、理解できる範囲だった。

C:①バスタブがなかったこと。

②食事の時同じ器から一緒に食べるということが当たり前であったこと。家族以外とはしたことがあまりなかったので戸惑った。

D: 韓国人は学生によって日本語のレベルに差があった。そのため、ほとんど日本語で会話がうまくいかないときがあってもどかしかった。

F: 1つのお皿を皆でつついて食べることは日本にはないので、文化の違いを感じました。しかし、それも自然に受け入れることができましたと思います。そのことで不便を感じたことはありません。

G: タクシーで韓国語以外なにもわからない運転手になにかまくし立てられ、車内にかなりびりびりした雰囲気が漂ったときには正直怖かった。「韓国語がわかりません」という韓国語をしっかりと覚えておくべきだと思った。

H: 特になかった。(行く前から違いを覚悟して行ったので)

I: ありました。食事マナーがかなり違いました。

J: やはり言葉が分からないので、苦勞しました。話せるのと話せないのとでは全く違うなと感じました。

L: ホームステイの相手の子は日本語が本当に上手くて、日本の芸能人にもとても詳しくだったので、すごく親しみがもてたし、予想してたよりもずっと違和感を感じなかった。

22. 旅行中、病気、事故などのトラブルはありませんでしたか。

全員: なし

23. その他セミナーに関し、ご意見、ご希望があればお聞かせください。

A: セミナーの前にもっと日本人同士が仲良くなれたら良いと思います。

B: 良かった点としては、自由時間をなるべくたくさん作ってくださったこと、日本側にはセミナーの予定をわかりやすく説明してくださったことなど。

C: 学校からホームステイ先までの距離を考慮して欲しかった。自分で選んだ相手なので、何かをいうのは間違っていますが、通学に時間がかかり、十分な観光が難しかったし、朝は早く家を出なければならず、帰りも遅くなってしまったため、ステイ先には寝に帰っている状態で家族と過ごす時間が必然的に少なくなったし、身体的にも負担が大きかった。時間を有効に使うためにも次回のセミナーからはもう少し考えてもらいたいと思う。

D: 先生本当にお疲れ様でした。大変世話になりました。最終日お疲れのご様子だったので心配です。残暑厳しいですがお体お大切に。本当にありがとうございました。

E: 十万円を超えなければいいと思うので、その分日数を長くしたらいいと思います。

I: 今回は第1回目ということでしたが、来年も開いたら良いと思います。

K: とてもためになりました。来てよかったです。ただ、自分が韓国語をできなすぎです。

L: 参加して本当によかったと思っています。もっと前からこういう企画があったらよかったです。

24. 今後開催してほしい企画があれば教えてください。

A: お茶大の留学生たちともっとたくさん知り合う機会がほしいです。たくさん企画してください。

D: 冬のソナタツアー。真剣に。でも私は卒業してしまっているでしょうか。

E: 韓国語の授業がお茶大は少ないので、例えば中級レベルくらいの授業を昼休みに開講してもらうことはできないのでしょうか？初級ばかり充実しすぎている感があります。

G: 韓国以外の国にもこのような気軽に参加できるプログラムを設けてほしい。

I: 半年後、みんなでまた会いたい。

J: 今回のようなセミナーをぜひもう一度!!

25. 事前に払ったもの以外に費用はどのくらいかかりましたか。

1～2万円: 2名 2～3万円: 8名 5万円以上: 2名

26. 参加費(69,800円)についてどう思いますか。

とても高い: 0名 少し高い: 0名 適当: 6名 安い: 5名 とても安い: 1名

< 韓国の学生 >

1. ホームステイ先で何かトラブルはありませんでしたか。

M: トラブルはありませんでした。楽しかったです。

N: 日本人パートナーの性格がよかったので、別にトラブルはありませんでした。親しみやすい性格だったので、家族と友達みんなから好かれました。

O: 一人暮らしだったのでいろいろな面で不便なところがたくさんあったと思う。また、最後の日はお湯が出なくてシャワーを浴びに友達の家まで行ってもらったのでいろいろな面で日本のパートナーには申し訳ないと思う。

P: ホームステイというのは韓国の家庭のいろいろなところを見せるものなのに、私は一人暮らしをしていたのでホームステイの相手の日本人学生には申し訳ない気持ちでいっぱいだった。しかも、私が一人暮らしであることを知らないで来たので余計に申し訳ない気持ちは強かった。寝るとき一番不便ではなかったのではないかと思う。

Q: ホームステイはしませんでした。

R: あまりトラブルはなかった。同じ文化圏の人同士、しかも毎日顔をあわせる家族同士でもいつもトラブルは起きる。しかし、言葉もあまり通じないしまったく違う文化で 20 年以上を過ごした人同士がたった数日の短い時間だったとしても一緒に生活するという点は負担になるのは事実である。ところが、始まる前から緊張していたが、ホームステイの時にはトラブルはなかった。

S: 別にトラブルはなかったが、私の日本語力がまだまだ足りなくて少し大変でした。

U: トラブルは全然ありませんでした。とても仲良く過ごしました。

V: トラブルはありませんでしたが、食べ物が少し辛かったかもしれません。

2. ホームステイについての感想を聞かせてください。

M: ホームステイは4回目だったので慣れていたのですが、日程があんまりにもきつかったのでただ泊まりに来るような気がして少し残念でした。

N: ホームステイは初めてだったのですが、本当にいい時間でした。異文化同士の人としかもよく通じない言葉を交わそうと努力しながら、お互いに思いやりが感じられて本当にいい経験だったと思います。

O: 外で過ごす時間が多かったので家で過ごす時間はそんなになかった。しかし、朝起きて一緒にご飯なりパンを食べながらいろいろ話げできた。一緒に高校の時の卒業アルバムも見ながらいろいろ話げできた。

P: 最初、ホームステイを受け入れるように声かけられたとき、一人暮らしなのになんでホームステイと思いつつあまり気が進まなかった。おいしい食事を作る自信もなかったし、私の一人暮らし振りをあまり見せたくもなかった。ところが、ホームステイをしながら一週間だけの生活で日本語ってこんなに伸びるものだなと思ったし意外に楽しかったのでよかったと思う。

R: ホームステイはたくさんの時間と費用が必要になってくる。しかし、その分やり甲斐とうれしさがあるということを経験を通じ私は言える。短い時間ではあったが一緒に過ごした6日あまりの間何年も付き合ってきた友だちぐらいの情を分かち合えた。これが韓国人の特性ではないかと思う。

同じ国で過ごし同じ言葉を使う友だちと付き合うのもけっして簡単ではないと思う。ところが、違う国で過ごし違う文化の人と友だちになれる機会とはもっと大変なことだしチャンスはそれほど多くあるものとは思わない。たとえ時間と費用においては犠牲が必要だったとしてもその犠牲の何倍以上に値する違う国の友だちができたので価値があったと思う。

S: ホームステイは初めてだったので最初は心配も多かったのですが、ワクワクし、実際にもとても楽しかったです。特に日本の友だちとお互いの文化について話すときが一番楽しかったです。もう一回チャンスが来たらまたやりたいです。短い時間ではあったが本当に仲良くなれて別れる時は本当に寂しかったし悲しかったです。

T: 私がホームステイをしたのとホームステイの人を受け入れたのがそれぞれ2回ずつあったので、自分としては十分準備をしたと思いましたが、でもやはりお客さんを受け入れるというのはいくら準備しても足りないなと思いました。短くて忙しい日程のせいで韓国の平凡な家庭をちゃんと見せられなかったのが残念です。しかし、お互いの違う文化を体験したり学んだりするいいチャンスだったと思います。

ただ、4泊5日のホームステイは長くはないですが、日程がきついわりには期間が長かったのでお互いに十分休みが取れなくて疲れたのでより多くのところを見たり経験したりするにはむしろマイナスになったのではないかと思います。なによりリードしていかないといけない自分が疲れたのでホームステイの友だちに最後までベストをつくせなかったのではないかと心配になります。日程に少し余裕があったらホームステイの期間が何日になっても構わないと思います。

U: ホームステイははじめてだったので、最初は家族もみんな不便に思うのではないかと、食事はどう

すればいいかなどいろいろ細かいところまで気になったが実際に来たら思った以上に家族ともとても仲良くなって最後にはまるで家族みたいに感じて気を使わなくなりました。とてもいい経験になりました。

V: ホームステイは初めてだったので最初は心配もたくさんありましたし、不便ではないかと思いましたが、とても仲良くなれたと思います。家族もみんな楽しがっていたし、1日ずっと一緒だったので会話力も少し伸びました。

W: 妹と二人暮らしをしていますので、日本の学生さんが不便になったらどうしよう、とすごく心配しました。でも、私のホームステイの相手が「私も独り暮らしをしているから気にしないでください。」と言ってくれて安心しました。一つ、残念だったことは、母が準備して送ってくれた美味しい料理と一緒に食べる機会があまりなかったことです。

X: 今回はホームステイの申込ができなかったのですが、後からホームステイができた人の話を聞くという経験ができたと言っていました。

Y: 一般的に私の日本語の勉強に本当に役に立ったと思います(特に聞き取り)。また、自分の日本への語学研修に立つ前、日本の学生に会えて、いろいろな面で楽しかったし、よかったと思います。来年、日本へ行ってもこの出会いが続けられたらいいなと思います。また、このような交流がもっと活発になって韓日の両国の友好の架け橋になれるといいなと思います。

α: ホームステイはしませんでした。

3. 日本語・日本文化エクステンジプログラムについての感想

M: 最初の日のプログラムには参加できなくてよくわかりません。2日目のプログラムで浴衣を着るのを教えてもらったり実際に着たりするチャンスができて本当によかったと思います。ただ、たくさんの人が着ることができたらよかったなと思いました。3日目のプログラムで少し残念に思うのは、韓国でもっと知られている祭りの説明ができたらいいなと思いました。しかし、今回のプログラムを通じ、両国の文化を見ることができてよかったと思います。

N: みんな準備するのに大変だったと思いますが、少し残念に思うのは、浴衣を何着か用意しみんな試着できたらよかったなと思います。また祭りについての授業のときは一緒に踊りを学ぶ時間があつたらもっといい授業になったのではないかと思います。理論的な授業よりは活動的でみんなが参加できる時間になるともっといいなと思います。

O: 日本の文化に少し近づくことができる時間だったと思う。しかし、もう少し授業の内容を工夫していただければと思う。1日目のビデオ授業ではもちろん人気歌手が出るのは別にいいと思うが、授業の焦点はどこにあるのかという疑問もあった。2日目の浴衣を直接見せてもらったりまた着せてもらったりしたところはとてもよかった。着物を想像するのが普通なのに若者層をねらって雑誌に載っている浴衣のファッション、またチマ・チョゴリとは違うところなど…浴衣を楽しむ日本の若者たちを少しは理解できた。最後の祭りの授業は実は日本人もあまり詳しくないという情報を得られて意味深い時間だったと思う。そして、直接踊りながら説明してもらって一層理解しやすかった。

P:最初はお茶の水女子大学生達が発表の授業をすることだから一生懸命準備してくるのではないかと楽しみにしていたが、実際に授業を受けたら期待したほどではなかったものでちょっとがっかりした。しかし、私達と違って討論をした点においてはすごくよかったと思う。

Q:日本の文化について詳しく、肌で直接感じる事ができてよかった。

R:日本語と浴衣、祭りの授業はとても大事な時間だった。日本語の時間では韓国と日本の場合を分けて議論する時間だったので、ちょっとしたことではあったが現在の日本と韓国について考える時間だった。2日目の浴衣の授業は直接目で見たり、着方についても教えてもらったり直接体験することができてとても楽しかった。祭りは学校の授業中見ることは多かったが、日本人から直接話が聞けて私にとっては興味深かった。

S:日本語のプログラムは映像をたくさん使ったのでつまらなくなかったと思います。1つ残念に思うのは浴衣の授業のときはみんなが着られたらよかったのに、代表で一人だけが着るのがとても残念でした。他の討論とか歌を習う時間とか全部楽しかったです。

T:とても楽しかったです。たまに難しい単語が出たときは少し聞き取れなかったのですが、いろいろ知らなかったところを学ぶことができてとても楽しかったです。特に伝統文化についての祭りや浴衣のプログラムはとてもよかったです。韓国ではみられない祭りや普段ぜひ着てみたかった伝統衣装についていろいろ知ることができてわくわくして楽しかったです。

U:1日目は日本の放送のプログラムを見ながら日本語の表現を勉強したりテーマを決めて韓国と日本の違うところまた同じところは何かを考えたりする時間だったのでよかったです。2日目の着物は今回の日本語・日本文化プログラムのなかで一番よかったと思います。着物についてももちろん習ったことはありますが、直接着るのは初めてだったのでとてもいい経験だったと思います。しかし、もっとたくさんの人が着られたらよかったのではないかと思います。また最後の日の祭りに関する授業も、学校では主に有名な祭りをいくつかしか習っていなかったもので、今回は私達が知らなかった祭りを取り上げてくれたり歌を聴いたりするのも初めてだったのでいい授業だったと思います。

V:楽しかったです。学年別に準備したプログラムがそれぞれだったのでよりいっそう楽しかったです。文法的なものよりは興味の持てるものが主だったのでつまらなくなかったです。

W:おもしろかったです。特に、4年生のお祭りについての授業がおもしろかったです。

X:日本語を教えてもらうプログラムもよかったのですが、それとともに、日本の文化も同時に接することができたのは特に印象的だったと思います。

Y:自分の日本語が下手で理解するのに少しは大変だったのですが、日本側のみなさんが用意してくれたモニターや浴衣を実際に見ることができて、楽しかったし、本当に有益な時間でした。

Z:それぞれの分野を紹介してくれて役に立ちました。

α:学校の授業とあまり変わらなかったのも、少しつまらなかった。浴衣を着るのもたくさんの人に機会が回って来なかったのも、残念だった。しかし、同じ年頃の人達で授業をしたのも、楽しいだったし、面白かった。

β:ホームステイの友達日本人学生から日本側はたくさんの準備ができなかったという話を聞

いた。4年生の発表の場合は一人が全部用意したと聞いたが、韓国側のプログラムを私が準備しながら準備する過程で学ぶこともたくさんあったと感じた。そこで、頑張ったチームほどいい成果が出ると思う。チームワークを発揮できるいいチャンスなので、韓国側は休み中にもしょっちゅう会って一生懸命準備したが日本側はそのようなことはなかったようなので少しがっかりした。

4. 韓国語・韓国文化エクステンジプログラムについての感想

M:たくさん準備したのは目に見えたのですが、実際にはみなの前で緊張してしまって、それが少し気になります。しかし、シチュエーション説明などを通じ、みんなが理解できたいいチャンスになったと思います。

N:韓国側で用意したプログラムも全部有益なものだったと思いますが、1日目と2日目の授業が重なるところがあって少しつまらないなと思いました。チマチョゴリを着る時間にはみんなが動く授業だったので、途中少しごちゃごちゃしてきた気もしました。私がチマチョゴリを着る時間の担当だったのですが、その間に伝統的な韓国の音楽とお餅を食べる時間も用意していたのですが、チマチョゴリを着る時間があまりにも長引いてしまい、韓国の美を感じさせるには足りない時間ではなかったのではないかと思います。

O:準備はいろいろしたが、授業はスムーズに進まなかった気がする。しかし、短い時間でハングルを教えたり授業をするよりは一週間の間韓国で感じられるいろいろな文化を直接経験してもらったりしたところが韓国の文化を理解するのに役に立ったのではないかなと思う。2日目のシチュエーション授業はもうちょっとリアルに授業をやっていたらいいなと思った。最後のチマチョゴリの授業は皆一緒に楽しめる時間だったのでよかった。

P:途中発表する内容を全部やり直したりしたので少し大変だったと言うか、なんだかスムーズに進まなかった気がしたが、最後にチマチョゴリを着たのはとてもよかったと思う。ただ、私達もあまり詳しくないチマチョゴリに飾るアクセサリーとか昔の宮廷で着ていた服の説明が長すぎたのでつまらなかったのではないかなという問題点もあった。

Q:挨拶言葉と韓国に来たときすぐ使える有用な表現を勉強することができたし、チマチョゴリを直接着ることができてよかった。

R:資料の調査、発表の前には「挨拶は全部一緒だ」という考えが支配的だった。ところが、資料を調査して発表した後、韓国の挨拶と日本の挨拶があまりにも違うことに気づいた。外国語を学ぶ時、最初に接するのがその国の挨拶である。その挨拶から両国の文化の差が見えてくるが、そのほかの多様な文化の面においてはもっとたくさんの違いがあると思われる。

シチュエーション説明は韓国へ旅行に来たとき必要になってくるいくつかのシチュエーションを再現しながら勉強する時間だったが、実際、シチュエーションを直接体験する時間ができたらと思った。しかし、自由時間に十分活用できたのではないかなと思う。

チマチョゴリの授業では説明は少し難しかったりつまらないと思ったりしたのではないかなと思うが、参加者全員が直接着てみたり写真も写したりして他の授業より楽しかったのではないかなと思う。

ところが、準備の時間が足りなかったのでいろいろな問題点があって残念だった。今度またこのよ

うなチャンスがあったら今回をきっかけにもっとうまくできると思う。

S: 韓国語の授業は一生懸命準備しましたが、残念に思うところがいっぱいあります。まずシチュエーションをたくさん見せたかったのですが…シチュエーションの説明を韓国語でしたので日本の友達が聞き取れない様子だったので残念でした。みんなが韓国語を話すときはとても楽しかったし、不思議でよかったです。チマチョゴリの時間にはみんなが楽しそうだったので本当にうれしかったです。

T: 皆が自分なりにベストをつくして準備をしましたが、思ったよりうまくできなくて少し残念です。しかし、韓国人である私達も詳しくなかった部分をちゃんと勉強することができて、日本の学生と韓国の学生にとってお互いにいい勉強になった時間だったと思っています。

U: まず 1 日目の韓国語の挨拶についての授業は日本人のみんなと一緒に参加できてよかったと思うが挨拶だけにあまりにも重点をおいたのでもっと楽しい他の授業のやり方を加えたほうがよかったのではないかと思います。2 日目のシチュエーション授業は日本人が直接韓国で使える買い物の仕方を学ぶことができたし、また韓国語の簡単な歌を覚えて韓国語でみんなと一緒に歌をうたったのはよかったと思います。3 日目のチマチョゴリの授業はみんな着ることができて一番よかったと思います。

V: チマチョゴリをみんなで見られて楽しかったです。そして商品などを使って興味を持たせたのがよかったと思います。

W: 日本のプログラムが討論中心の授業であったことに対して、韓国のプログラムは演劇など、みんなと一緒に参加する授業になって、楽しかったです。

X: 韓国の文化の紹介のプログラムが本当によかったと思います。

Y: 準備している間はいろいろ心配でしたが、実際にやっている間、日本側のみなさんが歌っているのをみてやりがいを感じました。また韓国の文化とそこに込められている精神的なところ、また日本との違い(チマチョゴリと浴衣など)を比べることができてところが楽しかったです。

Z: 2ヶ月前前から計画を立てていろいろ準備をしながら努力しましたが、時間があまりにも短くてたくさんの方が見せられなくて少し残念です。日本、韓国語のチーム両方ともに時間が足りなくて残念でした。

α: 一生懸命準備はしたが、たくさん見せられなかった気がする。また体系的な韓国語教育ができなかったので、教育の効率はよくなかったと思う。

β: 韓国側のプログラムを私が準備しながら感じたのは準備する過程で学ぶこともたくさんあったということだ。そこで、頑張ったチームほどいい成果が出ると思う。

5. ワークショップ、グループ活動についての感想

M: 時間が少し短かったのが一番残念です。もっといろいろなことを見せたかったし、一緒にやりたかったのに…時間に追われた気がします。そして、韓国の見せたくないところを見せてしまった気がして、ちょっと残念です。

N: グループ活動でグループの仲間と仲良くなって楽しい時間を過ごせたと思います。少し残念に

思うのは短い時間でいろんなところを回らないといけなかったので一つ一つの場所をじっくり見られませんでした。時間に追われじっくり見るのができなかったのが一番残念だと思います。プログラムの日とグループ活動の日を分けて設けて時間的余裕があったらいいなと思います。

O: 日本の友達と景福宮、東大門、チンジルバンまでいろいろなところを回ったが、景福宮は韓国側の学生が事前知識が足りなくてたくさんの説明ができなかった。事前に勉強して行けばもっといい文化体験ができたのにとあって、ちょっと残念！一緒に買い物もしたり鶏のカルビを食べたりしながら楽しい時間を過ごせた。

P: グループ活動をやりながら私が行ったところをもう一回行ってみるチャンスができて今まで見逃していたところを改めて見るきっかけになった。

Q: 1日目コラージュをやるときは気まずかったが、グループ活動をやりながらお互いにもっと仲良くなれるチャンスができてよかった。

R: 一緒にゲームをしながら話し合える時間だったので午前の授業に比べ気軽に楽しめる時間だった。言葉よりは動きを必要とする授業だったので韓国側の学生にはやりやすかったし、楽しかった。プレゼンテーションのやり方だったら多分堅苦しいと思ったかも知れないし、韓国側の学生にはすこし無理だったかも知れない。また、なかなか近づきにくかったと思う。

S: グループ活動とかワークショップを通じ仲良くならなかった人とも付き合うことができよかったし、また協働作業だったのでお互いにいろいろ話ができ楽しかったと思います。

T: ひょっとしたら自分のホームステイの友達と仲のいい友たちだけで過ごした時間になったかもしれないが、グループ活動とワークショップを通じ皆が仲良くなれて何よりも記憶に残ると思います。最近それぞれの人が何を考えているのかわかるワークショップと(私のグループは美に関心がありましたね…)韓国、ソウルのいろいろなどが紹介できたグループ活動はお互いにいい経験と勉強になったと思います。楽しかったです。ただ、グループ活動もワークショップも少し時間が足りなかった気がして、残念です。

U: ワorkshopはジャンケンのゲームが一番記憶に残っています。そのときは初めての活動だったので気まずかったのが先に近づいて話せてよかったし、雑誌を使っのグループ同士のワークショップは正直あまり意味がなかったと思います。グループのメンバー同士が親しくなるための活動であることはわかりますが、やりながら少しつまらないと思ったのが事実です。

グループ活動でよかったのはグループ同士でいろいろなところを行ったり発表の準備をしたりしながら仲良くなれたところだと思うが、もっとグループ内の人数を増やしたほうがよかったのではないかと思います。グループ内の人だけが仲良くなって他のグループの日本人とは仲良くなれるチャンスとか話すチャンスもあまりなかったのが、それが一番残念です。

V: グループ活動とワークショップは大体には楽しかったですが、大学生にはレベルが少し低かった気がします。グループ活動を通じ同じグループの人と仲良くなれて楽しかったです。

W: 3日目のソウルの探訪は楽しかったですけど、少し疲れました。行きたかったところがいっぱいあったのに行けなかったこととか、時間が足りなかったからちゃんと感想が発表できなかったことなど、物足りないことがありましたけど、楽しかったです。

X:円滑なコミュニケーションをとるのは少し難しかったのですが、出された課題をグループのみんなと一緒に終えてから感じるやり甲斐は本当に大きかったです。繁華街に行って楽しめた時間は特に記憶に残ります。ただし、セミナーのすぐ後ワークショップ、グループ活動などプログラムがあまりにも集中しすぎていたせいかみんながちょっと大変そうでした。

Z:直接いろいろ回りながら体験したり感じたり教えたり、お互いの異文化、習慣などを同じ場所で感じたりその場で直接それについて話し合ったりするのができたのはよかったです。ところが、今回のプログラムでは次の日の発表のために一日にたくさんのところを回らなければならない負担もありました。

α:教室で座っているよりいろいろなところを歩き回りながら直接文化を体で体験したことが一番よかったです。理論だけでは見せられないものをもっと効率的に韓国のことが見せられたし、回りながら面白いエピソードもあった。景福宮とか仁寺洞は普段あまり行かないところだったので、詳しい説明ができなかったのがちょっと残念だった。

6. 報告会に参加しての感想

M:他のグループのやり方を見て、考え方がそれぞれだなと思いました。他のグループのやり方を通じ、もっとたくさんの情報が交換できたいチャンスになったと思います。

N:ソウルに住んでいるので仁寺洞にはよく行きます。贈り物を用意するか珍しいものがほしい時はよく行きます。ところが、今回お茶大の友達と一緒に行って感じたことは、自分が韓国人だから日本のみなさんに韓国のもを紹介する立場だったので、今まで自分が見逃してしまったのもう一回見直すきっかけになったのと同じにもっと関心を持つようになったということでした。自分が学ぶチャンスにもなったし、韓国の伝統的なものがどんどん薄れていくことに対し、自ら反省するきっかけになったし、たくさんのことを感じさせる一日でした。

O:他のグループはそれぞれのちゃんとしたテーマをもっていろいろなところ回ったなと思った。私たちのグループもちゃんと計画を立てて回ればよかったと思った。他のグループがどんなところを回ったか知ることができてよかった。

P:報告会をしながら他のグループが同じところも行ったがみんなが違う経験をしたのだなと思ってとても面白かった。そして、自分の日本語が上手だったらグループの発表のとき一緒に参加できたのと思いつつ、少し残念だった。

Q:それぞれのグループがどこへ行ってなにを感じたかを知ることができた。

R:ソウルのいろいろなところを歩き回るだけではなくにも記憶に残らないと思う。私の海外の旅行の時がそうだった。ただ遺跡をみたり買い物だけの旅行だったので私がどこを訪ねたかも覚えていない。しかし、報告会を通じ、私たちがどこを訪ね、そこでなにをしてなにを食べたかまたなにを感じたかななどを整理するのができてよかったと思う。

S:報告会もグループみんなの協働作業だったので団体の生活での楽しさを感じることができたとし、他のみんなに報告することですごく興奮し、頑張りたいと思いました。同じグループの人と相談し、それをみんなに報告したり、また相手の話もよく聞いたり…報告会もいい経験になりました。

T:発表の準備をしながらただお互いにいろいろ見るだけで終わるのではなく、その経験をもってそれぞれの文化の違う点と感じたのを話し合えるその過程でたくさんの方が学べたと思います。そして、他のグループの発表を聞きながら文化の差など私のグループができなかったところに気がつき、「今度またこういうチャンスがあったらこうしよう、ああしよう」と思いました。お互いの文化を味わったり経験したりそれをもう一回整理する時間ができてもっと記憶に残ると思います。

U:私のグループは報告会のためにというよりはただみんなと一緒に楽しんでそれを写真でとったりして発表したのがよかったのではないかと思います。あまりにも報告会を意識しすぎてたくさんの方をやるよりは、ただ気軽にみんなで遊んだり見たり食べたりしたのをありのまま発表したのがむしろいい発表になったのではないかと思います。

V:このような機会は初めてだったのですが本当に意味ある時間でした。もう一回振り返ってみるきっかけになったし、たくさん学ぶことができました。

W:報告書を作った後、「私たちのチームは完璧だ！」と思いましたが、他のチームもものすごくおもしろいところに行ったり、いろんな経験をしたりしてびっくりしました。

X:個人的な事情で同じグループのみんなを手伝えなくて残念に思っています。

Y:いろいろなテーマを通じ、日本文化について知ることができました。また、グループ活動を通じ、自分のホームステイ相手だけではなく、他の友達と仲よくできて楽しかったです。

Z:私達が見て回ったところを単純にそれで感じて終わったのではなくもう一回振りかえってみて何がよかったか何を感じたのかを整理することができて、日本へ帰ってから長く記憶に残ると思います。

7. 大学でのプログラム以外の自由時間はどのように過ごしましたか。

M:正直、時間的に余裕がなくて家はただ泊まる場所だけの気がしました。他の自由時間は大きな市場に行って買い物したり(韓国側が用意したものをそこで直接使うことができました)南山へ行って夜景を見たり、私が家庭教師をやっているところへ一緒に行って日本語を学んでいる中学生と話す時間もありました。

N:韓国の演劇をみました。日本の学生は韓国語が全然わからないので、心配はありましたが、それもいい経験なると思い、チケットを買いました。また私の友達と会ったり楽しい時間を過ごしたりしました。散策しながらいろんな話ができて楽しかったです。

O:他の友達と遊園地に行ったり明洞のデパートに行って買い物したりした。せっかく韓国へ来たので焼酎も一回ぐらいは体験してもらいたかったのでレモン焼酎とヤクルト焼酎そして海鮮ネギチヂミも食べながら楽しい時間を過ごせた。

P:学校での自由時間は日本側と韓国側の友達と飲みものを飲みながらお喋りをした記憶しかない。

Q:仁寺洞に行って伝統的なものをみたり、教保文庫と東大門で買い物をしたりした。特に私たちのグループは韓国のおいしいものを食べ歩いた。

R:1日目は近いところにある高麗大学へ行って、そこで最近大学生の間で一番流行っているボー

ドゲームカフェに行った。ゲームを通じ最近の大学生の遊び方などを知ることができたし、もっと仲良くなれたと思う。

2日目は歓迎会の後漢江に行ってきた。漢江は夜景が綺麗だし、世界的に大きく長い川で有名である。

3日目はチンジルバンへ行ってきた。日本はお風呂の文化が浸透しているので、韓国のチンジルバンとか垢すりの文化が知りたいのではないかと思った。チンジルバンでお風呂に入ったリサウナに入ったリした。日本の友達は今までの疲れがお風呂で取れたと言った。やはり日本人はお風呂が好きだなと実感した。

4日目は梨花女子大学へ行ってきた。そこはお茶の水女子大と姉妹学校であり、女子大としては一番有名などころである。ホームステイした友達があそこへ留学したいと言ったので、行ってきた。梨花女子大の前はたくさんのお店があつて買い物もできた。

最後の日は教保文庫へ行ってきた。教保文庫はソウルで一番大きくて有名な本屋である。そこで、韓国の漫画と雑誌、DVD などを見てきた。

S:学校でのプログラムも楽しかったのですが正直野外活動のほうがもっと楽しかったです。日本のみんなももっといろいろな話ができたとし、もっとお互いに知ることができる時間だったと思います。また、みんなに韓国のことを紹介することも楽しかったです。

T:まず韓国へ来る前にやりたいなと思ったのと食べたいなと思ったのを経験させたかったので、あっちこっち歩き回ったり食べに行ったりしました。そして、自分としては短い時間を有効に使うと思って、ソウルの紹介のために、どこに行ってもあるようなショッピングセンターとか繁華街よりは南山のケーブル・カーとソウルタワーの夜景、ヨイドの遊覧船などを推薦し一緒に行ってきた。

民俗村に行く前日には家族とチンジルバンに行つて垢すりもしました。

U:だいたい私達は何人かでグループを作つて一緒に遊んだのがとても楽しかつたしよかつたと思います。東大門、教保文庫、仁寺洞、チンジルバン、梨花大、高麗大、漢江を回りながらおいしいものを食べたり、いろいろ見たりしました。教保文庫は意外と日本人に気に入ってもらつてよかつたし、仁寺洞はやはり韓国についていろいろ見せることができよかつたと思います。高麗大は1日目直接家に帰らないで一人暮らしの学生の家に荷物を置いて仲いい何人かで(12名)行つたのですが、先にご飯を食べて学校内に入ってサムルノリをみましたが日本の学生がみんなとても不思議に思っていました。そして最後にボードゲームセンターへ行つてみんなでゲームをやりました。ゲームの説明が大変だったのですがこれも日本ではないと言つてとても楽しんでいました。そして漢江では夜景もみながら3.6.9のゲームもやつたり、チンジルバンに行つたりしていろいろおしゃべりができると仲良くなれるいい経験でした。私達は主に混雑しているところへ行くときは4人のグループで行つてチンジルバンとか漢江はいつものメンバーのみんなで行きました。そのグループの韓国側の中心メンバーはハングル教育チームとシチュエーションチームで準備のときから仲よし同士だったので一緒に回つたのですがチマチョゴリのチームも一緒に行動ができたらよかつたなと思います。残念に思います。

V:自由時間には主にソウルの市内観光を中心に。東大門、仁寺洞、梨花大、鐘路などおいしい店と見どころがたくさんあるところを観光しました。短い時間でいろいろなところを回ったので少し疲れました。

W:だいたいソウルの観光をしました。ソウルタワーに行ったり、遊覧船に乗ったりしました。お土産のためにショッピングもしました。

X:最初はお互いに気まずかったのですが、時間が経つにつれみんな仲良くてきたと思います。

Y:ほとんど家族と一緒に過ごしました。寝不足にならないように注意もしました。ソウル市内の有名なところもいろいろ回ったのですが(東大門、鍾路、仁寺洞など)、ソウルの近郊のミサリのカフェが集まっているところ、サムソン洞の COEX 展示場などできるだけいろんなところを見せたかったのです。またチンジルバンに行って泊まったのですが、楽しい思い出になりました。

α:仁寺洞と景福宮を回りながら韓国の伝統的な面を見た。そのほかの活動には参加しなかった。

β:自由時間は主に仲いいグループ同士で日本側のみんなが喜びそうなところへ行ったり珍しい食べ物、同徳学生ではない他の学生と会ったりもした。それで、家へ帰る時間が1日目以外は殆ど11時が過ぎて帰ってきたので家族との時間は夜の1時間ぐらいと朝食の時間ぐらいでそれが少し残念だった。

8. 民俗村観光についての感想

M:韓国人でありながら韓国の文化についてろくに説明ができなかった気がします。しかし、民俗村に行ってもっと仲良くなるチャンスになったのではないかと思います。バスの中ではゲームをやりながら…または民俗村内では乗り物を乗りながら…。

N:仁寺洞でも感じたように韓国の伝統の文化についてわからないところが多い自分に本当に恥ずかしかったです。一瞬私自身も外国人になった気分でした。そして、あんなに広い民俗村を一日で回るのも無理かなと思いましたが、何時間で全部回るなんて、あまりにも時間が足りなかったです。今度は時間的余裕をもって1つ1つゆっくり韓国の伝統的な家作りとか行事について話できる時間になるといいなと思います。

O:以前も何回も行ったことがあるが日本の友達と一緒にの今回はまた違う感じだった。我々もなかなか見ることができない伝統の結婚式も見られたし、一緒に伝統の食べ物でお昼も食べることができて楽しかった。一緒に板跳びもしたり昔の先祖たちの生き方をみたりすることができてよかった。

そして、最後には短い時間だったが一緒に乗り物も乗った。楽しかった。

P:昔の文化を味わうことができて本当によかった。伝統の結婚式も見られたし、昔の伝統の遊びである板跳びもして…しかし、時間が短すぎて民俗村をゆっくり全部見られなくて残念だった。

Q:民俗村には行きませんでした。

R:民俗村へ行く前ソウル市内の日本人に有名な観光名所の明洞と東大門に行ってきたがそこは韓国の昔からの伝統の文化を見るには相応しくない所であった。仁寺洞ただお店がずらっと並んでいて伝統の文化を見るには相応しくなかった。また景福宮も朝鮮時代の国王が住んでいた

ところで、昔の庶民の生活ぶりをみるには無理だった。ところが民俗村では韓国の伝統の結婚式といろいろな家屋、ブランコと縄跳びなど伝統の遊びなどを直接体験しながら昔の韓国の庶民の生活ぶりを少しは感じることができた。

しかし、あまりにも時間が足りなくて全部回れなくて本当に残念だった。十分な時間をとってもっといろいろ回れたらよかったのにと未だに未練が残る。

S: 民俗村は本当に残念です。日本のみんなに説明したいことも、見せたいこともたくさんあったのに時間が短すぎました。日本のみんなに十分見せないまま帰ってこないといけなかったのが本当に残念でした。

T: 私も今まで民俗村には行ったことがなかったので今回をきっかけに行くことができてよかったです。昔の韓国の姿、食べ物、いろいろな伝統行事を見せることができるいいところだったと思います。お互いにいい経験になったと思います。外国人も内国人も自分の文化、多文化の経験ができるいいところだったと思うので、今度外国人に韓国を案内する時はぜひ民俗村に行こうと思いました。たった3時間ぐらしか回る時間がなかったので、3種類のチケットの内、一番効率いいチケットを選んで団体の購入をしたらよかったのではないかと思います。

U: 民俗村は小さい頃行ってから久しぶりだったので遊園地もでき、昔と変わっているいろいろができて私達もいい体験になりました。しかし、時間があまりにも短すぎてろくに回れなかったのは一番残念です。大学路でご飯を食べるときまでは時間が余ったのでむしろ民俗村でもっと時間をつかったほうがよかったと思います。大学路に着いたときは時間曖昧でやる事がなかったので…

V: 民俗村は韓国人にとっても珍しいものだったのでいろいろな面で楽しく観光することができました。そして、遊園地での時間も楽しかったですが時間短くてゆっくり回れなくて残念でした。

W: 韓国の伝統的なものがいっぱいありました。昔の人々がどのように生きていたのか感じることができました。でも、現代化によってだんだんなくなってしまって少し寂しかったです。

X: 民俗村の観光には参加できませんでした。

Y: 実は私も民俗村は初めてだったのですがとても楽しい発見でした。思ったより外国人も多かったし、昔のやり方でご飯を炊くのをはじめ、見どころがたくさんあって、そういうところを見せられたのは本当によかったと思います。今度外国人の友達が来たらまた連れて行きたいと思います。

α: 民俗村には行きませんでした。

β: 正直少しつまらないのではないかと考えていたが、外国人はもちろん韓国人もぜひ行ってみたいところで、韓国の昔の生活ぶりを見せることができ勉強にはいいところだと思う。もちろん明洞みたいな繁華街のほうが喜ぶかもしれないが、韓国に交流で来たのは単純に安く買い物ができるいいというだけの目的ではないので、遊びながら勉強もでき見どころもたくさんあってよかったと思う。

9. 今回のセミナーに参加しての全体的な感想

M: 4年生なので知り合いもいなかったのが最初はけっこう緊張しましたが、自分自身の会話力を試してみる機会になったと思います。やはり、まだまだでした。そして、私と一緒に生活した日本人

学生の専攻が日本文学だったので、今準備している教師任用試験の文学をもっと理解するチャンスになったと思います。(私たちは殆ど地下鉄とバスのなかで文学について話し合いました。お互いに質問したりなど…)

N: セミナーに参加できて本当によかったです。私自身もたくさん学ぶことができたし、もっとたくさんのかたちを経験したいなと欲もできました。日本語が下手だったので意思伝達の大変さもしみじみと感じたので、日本語をもっと勉強しなくては、と思いました。言いたいことがたくさんあったのですが、うまく伝えられなかったのが悔しかったし、自分を見つめ直すきっかけになりました。そして、韓国の伝統についてあまりにも無知な自分に恥ずかしい限りでした。今度また同じチャンスがあったら韓国の文化と伝統についてもっと勉強して自信をもって説明できるというなと思います。

O: セミナーのテーマをもっとしっかり決めればよかったと思う。一日に一時間授業をやるのはあんまり役に立たない気がした。そして、お互いの論点になるテーマで議論したり日本と韓国の異文化についてもっと深く話し合いができたらしらもっとよかったのではないかと。しかし、皆がまじめに授業に参加したりして、短い時間だったがお互いにいろいろな面で役に立つ時間だったと思う。

P: 今回お茶の水女子大とのセミナーに参加して日本の友達もできたしまた発表の準備をしながら韓国の友達とももっと仲良くなれてよかった。

Q: こんな機会は珍しいし、本当にいい経験をした。日本人の日常的生活ぶりものぞくことができたし、考え方の類似点、相違点なども肌で感じることもできたし、堅苦しい授業のやり方ではなく、学生たちによる発表を通じてお互いに違う国の文化について知ることができてよかった。

R: 短い時間ではあったがとても有益な時間だった。大学生活の中でお金では決して買えない、本当に大切な思い出になったと思う。

もうちょっと時間の余裕があって、いろいろなところへ連れて行ったり、おいしいものもたくさん食べさせてあげられたりできたらよかったと思う。日本側の皆に申し訳ない気持ちで一杯だ。また自分の日本語が下手でホームステイの友達をはじめとして日本側の皆に申し訳ないと思う。

セミナーを通じ感じたのは、短い時間ではあったが一緒に生活しながら、日本と韓国の文化について考える時間ができてよかったし、今まで授業のなかで学んだ日本と日本人について直接目で確認できる大切な時間だった。それは、学校、塾、本などを通じては学べないものだと思う。

S: 上でも述べたように今回のセミナーは私にとっては新しい経験ができました。日本についていろいろ知ることができたし、日本の皆さんとグループ活動をしながら日本の女子大の学生についてもいろいろ知ることができました。今回のセミナーに参加できて本当にうれしかったし、また機会があれば参加したいと思います。

T: とても楽しく勉強ができたし、楽しい時間だったと思います。ただ旅行とか外国人の友達を通じてだけでは経験できない楽しくて有益な時間でした。また、一方だけの発表だけを聞くのではなく、お互いにお互いの文化と言語の紹介のために準備したり発表したり聞く過程で自分の文化だけではなく多文化の文化も学んだり、普段本と授業だけで学んだ文化の差を実際に体験しながら

らいろいろ考えることができたいい時間でした。

U:セミナーに参加できて光栄に思っています。ホームステイは初めてだったので最初は心配もありましたが実際に日本人に接してみて今までの偏見はなくなりました。

日本人も韓国人と一緒に仲良くなれたし言葉の壁はあったが、よく理解してくれたし、お互いに思いやりがあったのでとてもよかったですと思います。人数もちょうどよかったですと思います。今回のセミナーを通じ日本と日本人についてもっとたくさん知ることができていい経験だったと思います。

Y:とても楽しかったし、忘れられない思い出になると思います。もちろん個人的に仲良くなれたが、プログラムが体系的に組まれていてつまらなくなかったし、両国ともにたくさん準備をしたなど思いました。このような交流が続けられたら今度はもっといい交流になると思います。

W:最初は日本の学生と言葉とか意見が通じるかな…と心配しましたが、私たちの考えがだいたい似ていましたから、セミナーに参加するのが楽しかったです。似ている中に少しずつの違いを発見するのもおもしろかったです。

X:思ったより緊張感のある時間でした。韓国語の講座の準備が不備だった気がして、この点が一番残念だと思います。終わってから「もっとよくできたはずなのに…」と残念に思いますが、その分いろいろやりがいを感じられる時間でした。個人的にはホームステイの相手がいなかったもので、その点において他の人より交流ができなかったと思います。しかし、セミナーを通じいろいろ話し合いのなか、自分と考え方が似ている人とか、個性が目立つ人とかそれと反対の人をみながらその中で緊張感溢れる経験は普段経験できないいい経験だったと思います。

Y:全般的に多様な内容と活動だったと思います。韓国と日本の学生みんなが学べた有益な時間だったと思います。初めてだったので足りないところもたくさんあったのですが、次はもっとうまくできると思います。

Z:このような国際交流セミナーははじめての経験だったのですが、単純にプログラムに従うだけのものではないことに気付きました。同じ国の人に接するのもそう簡単ではないと思いますが違う国の人と考えたり感じ合ったりするのはそう簡単なものではないと思いました。学校でこのような場を作ってくださいと私にとってはとても役に立ちました。これからも毎年このような場があるといいなと思います。

α:日本という国を理解するにはまだまだけど、今回のプログラムを通じ、日本について理解できなかったところが、少しは理解できたと思う。いい経験になったと思う。

10. セミナーの開催時期、日数についてどう思いますか。

M:もっと時間的余裕があるといいなと思います。おとしはもっと時間的余裕があった気がします。今年には時間に追われた気がしました。多分、韓国側でも授業をしたので午前、午後の時間を全部学校で過ごしたからかも知れませんね。

N:後期の授業が近づいてきたので少しバタバタしたのではないかと思います。そして日本側の人数が7~8名ぐらいのほうがみんな一緒に仲良く過ごせたのではないかと思います。

O:短い時間で観光と午前は授業までであるし皆が疲れ気味だった。午前の授業も少し増やして全

体的に日数を増やしてもうちよつと文化体験や勉強ができればよかった。

P:セミナーの開催時期は韓国での10年ぶりの暑さが終わった後だったので、一番よかったと思う。

そうではなかったら毎晩熱帯夜で苦しんでいたかも…しかし、時間があまりにも短すぎて日本の友達に韓国のいろいろなところを詳しく説明できないでただ大雑把にみた気もするし、あまりにもきつい日程で少し大変だった。

Q:適当だった。3日間の文化体験と自由時間を利用し韓国の文化を体験するやり方がよかった。

有益な計画だったと思う。

R:開催時期は適当だったと思う。学期中はみんな学校の授業の関係で参加できなかったと思う。

また冬よりは夏のほうが活動するには適当だと思う。真夏でもなかったもので、活動するにはちょうどよかった。

しかし、日程にもっと余裕があったらいいなと思う。短い時間でやることがありすぎていろいろな面で疲れたのである。そとで過ごす時間が殆どだったので、家へ帰って来る時間が遅くなり、ホームステイの家庭の家族と過ごす時間は殆どなかった。それで、韓国の一一般の家庭のくらしぶりを感じることはできなかったのではないかと思う。

S:全部適切だったと思います。

T:韓国の大学の開講日が近かったのでセミナーが終わって疲労回復(?)と開講の準備に少し忙しかったと思います。

期間に対して日程が厳しかったので日本の学生も韓国の学生も皆少し疲れたのではないかと思います。むしろ期間を長くして、そのうち半分をホームステイにすると疲れもたまらないしもっと効果的ではないかと思います。

U:期間が少し短い気がしました。10日ぐらいがよかったと思います。短くて寂しかったです。

V:セミナーの時期は韓国側の学生には適切だったと思います。開講の前とか休みの直後がいいと思います。休みの真ん中には時間をつくるのが大変なので日本側の学生には少し不便だったかもしれません。そして日数も適当だったと思う。

W:開催時期は適当だったと思いましたけど、日数をもっと長かったら、と思いました。

X:日数と時期は適切だったと思います。

Y:つまらないのではないかと思いますでしたが、ワークショップがただ聞くだけではなく一緒になにかできたので、思ったより時間が早かったし、5日という時間はけって短い時間ではないと思いますが、少し物足りなさも感じました。もっといろいろやってあげたいと思ったのですが、帰ってしまったので、少し申し訳ない気もします。しかし、そのなごりは来年日本で喜びへとつなげて行きたいと思います。

α:時期は適切だったが、期間が少し短かった気がする。1週間とかそれ以上はあったほうがいいのかと思う。

β:冬休みよりは夏のほうが見どころもたくさんあるし活動的に行事に参加できるのでいいと思う。ただ、期間が少し短い気がして残念だった。上でも述べたように期間は短いのに回らなければいけないところはたくさんあって、韓国の家庭の風習を感じる時間はとても短かった。韓国の家庭の風

習を感じられるように家族と過ごす時間を考えて、もし今度交流する時があったらもっと日程が長いといいと思います。

11. 日本との交流についてどのようなことを感じましたか。

M:やはり韓国と日本は異文化であることを改めて感じました。そのずれを克服するために(お互いに距離をおく点において…)いたずらをしてみたり、笑わせたりもしましたが、少し違うなと思いました。近くて遠い国であることを改めて感じました。

N:言葉も考え方も違う二人がホームステイを通じ出会って、その間お互いの言語と文化について少しずつわかるようになって、自分の国の文化についても考え直すきっかけになったりしたのは本当によかったと思います。今回の交流を通じて私自身いろいろな面で考え直す時間ができましたし、もっと頑張らなくては、と思いました。忘れられない思い出になったと思います。

O:異文化であることをしみじみと感ずることができたし、違う国で生活スタイルも違う人同士で仲いい友たちになれてとても楽しかった。

P:今回のセミナーを通じ学校の授業で話だけで学んだ日本の文化を体験することができて、「へえー、世の中にはいろんな文化が存在するのだな」と思った。

Q:浴衣と祭りについて教えてもらったことがよかった。韓国と比べながら日本の伝統衣装と祭りについて考えることができたし、韓国は現在伝統的なものがどんどん薄れてきて残念に思うが、日本は伝統的なものを大事に思うところがいつもうらやましかった。

R:いくら私が日本と日本の文化について関心が少ないとしても日本語を専攻しているので、他の人よりは日本について関心を持っていることは事実である。そこで、今回の日本との交流はこれから私が日本についてもっと関心を持っていけるきっかけになったと思う。多分韓国についてあまり関心がなかった日本側の友達も同じだったのではないかと思う。今回の交流はお互いの文化についてもっと関心を持てるようになる出発点になると思う。

S:日本は韓国と似ているところがたくさんあると思っていましたが、細かなところで一つ一つ違うことに気がきました。もっと日本との交流を通じ日本についてたくさん知りたいです。

T:とてもいいことだと思います。日本語を専攻している学生の場合は、少しは日本の文化についてわかるが、そうではない人は日本の文化を誤解したり、未だに嫌な思いを持っていたりするケースが多いと思います。今回の交流を通じ、文化間に生じる誤解とか勘違いを少しずつ考え直して、より世界的な心を持てると思います。交流が増えるほどお互いを理解できお互いに正しく接することができると思います。

U:今まで私をはじめとして日本について誤解をする韓国人が殆どだったと思いますが、今回の交流を通じ考え直しました。私の父と祖母も日本が好きではなかったし、私も日本語を勉強しながらあまり好きではなかったです。しかし、今回ホームステイを通じ家族みんながホームステイの相手が好きになったし私も日本側のみんなが好きになって、日本人を日本の国とは別として一人の人間として付き合うことができました。

V:一般人ではなく日本語を専攻している学生なので日本との交流はとても意味深いと思います。

交流そのものもいいですが、個人的にもっと仲良くなれたし、また日本語についてもたくさん勉強になったのでとてもいい機会だったと思います。

W: 韓国についてよく知っている日本の学生たちもいるし、日本についてよく知っている学生もいました。でも、逆に韓国側は日本についてよく分かっていない人々もいました。今回のセミナーのように文化の交流が活発になる機会がたくさんあればよいと思います。

X: 実は専攻も日本語だし、今回のセミナーの以前にも個人的に日本の文化、日本から来た人々に接したことはあったのですが、直接の交流は今回のセミナーが初めてでした。セミナーとグループ活動だけ参加させていただいたのですが、本当に大きい経験ができたと思います。多分ホームステイまでできたらもっと深い交流ができたと思います。ある友達の話聞いたらホームステイの友達が帰ってからもしばらくはまわりでしゃべっているのが日本語に聞こえたという話を聞いてから、これからの自分のホームステイが楽しみです。

α: 日本はこうだ、日本人はこうだという話だけ聞いてきたところを直接自分で接しながら異文化を理解する方法も学んだし、今までただ誤解していたところもあったなと思った。今回みたいに直接自分で接してみないと一生感じるできないところもあるのではないかと思う。

1 2. 旅行中、病気、事故などのトラブルはありませんでしたか。

N: 韓国人はお客さんに対してとにかく食べ物の量を大きめに盛るのが情の証だと思って、たくさんあげてしまったためにパートナーの日本の学生が消化剤を飲んだと思います。食べる量が少ない日本人には韓国人の情がこもったたくさん量はやっぱり負担になったのでしょうか？

P: チンジルバンに行った時ある日本の学生が財布を無くすハプニングが発生してしまった。事前に財布をロッカーの中に入れておくように言っておけばよかったと思った。

R: 私とホームステイした友達がチンジルバンで財布を無くしてしまった。

S: ありませんでした。とても楽しかったです。

T: ありませんでした。ただ、私がパワー全開だったせいで睡眠時間とか休み時間が短くて日本のパートナーが疲れたかもしれませんね。

U: 私と私のホームステイの相手にはありませんでしたが、何人かでチンジルバンに行ったときある日本の学生が財布を無くしてみんなが心配しました。

V: 旅行中、私とホームステイ相手には事故とか病気はありませんでした。民俗村に行く途中、一人の日本の学生が少し車酔いしましたが特にほかのトラブルはありませんでした。

1 3. 日本語は問題ありませんでしたか。

M: 日本語については、そうですね…多分自分の日本語力がまだ足りないので問題が無かったとは言えませんね。仕方なくフォーリナー・トークをしたので、言い換えなどを使ったりしました。しかし、むしろ日本の友達がわからない単語などを私が説明した時もありました。合っていたか合っていなかったかわかりませんが…そういうときはお互いに辞書で調べたりしました。

N: 日本語をもっと勉強しなくては、と思いました。話したいことはたくさんあったのですが、日本語

が下手だったので、うまく伝えられなかったのが残念です。今度会う時は、日本語が上手になってたくさんのことを聞かせてあげたいと思います。

O:感情表現をするのがなかなか難しく、なるべく簡単な表現を使った。もっと勉強しなくてはと思った。

P:私は日本語を話すより聞き取りの方が慣れているので聞き取りはある程度できたのに話すときは十分にできなかったという問題点があった。もっと勉強しなくてはと思った。

Q:韓国の文化を紹介するとき十分に説明できなかったところが残念だった。

R:今回のセミナーに参加する前、一番心配だったのはお互いの文化の差のところだった。ところが、実際にセミナーに参加して一番深刻な問題は言葉だった。今まで、自分なりに頑張ってきたつもりだったが、それでは全然足りなかった。また、日本の歴史とか文化についての勉強は今回の日本人と言葉を交わすときにはそれほど影響を与えなかったので、今まで学んだ授業は今回のセミナーにはそれほど役には立たなかった。これは多分今までの会話の授業をさぼったせいかもしれない。今回のセミナーを通じ自分の日本語の実力と勉強のやり方について考え直す時間になった。それが一番反省したところである。

S:私の日本語力が足りなくてホームステイの友だちと言葉を交わすのに少し大変だったと思います。いろいろな話をしたかったのですが、それができなくて残念です。

T:自分なりに頑張ったつもりでしたが、間違えたところがたくさんあったと思います。しかし、誤解を招くようなことはなかったと思います。(自分だけかな?)ただもっと勉強を頑張らなくては、と思いました。

U:たまに日本にはなくて韓国だけのもの、たとえばムックとか…日本にはないものなので説明するのが大変だったのですがそのほかの日本語の聞き取りは大丈夫だったと思います。まだ日本語が下手ですが日本のみんなが私の日本語が上手だとほめてくれて自信ができました。

V:やはり会話力の足りなさを感じましたが、なるべく簡単な単語とやさしい表現を使ったので大きな問題はありませんでした。しかし、もっと勉強しなくてはと思いました。

X:少し大変だなとも思いましたが、簡単な会話は大丈夫だったと思います。深刻な内容の意見の伝達は難しかったです。

α:日本語が上手ではなかったので意見をちゃんと伝えるのが難しかったが、生活するには問題はなかった。

14. セミナーに関し、ご意見、ご希望があればお聞かせください。

M:教育を専攻している人たちがこのセミナーへ参加したらどうかと思いました。最近韓国では日本語教育が、日本では韓国語教育が盛んに行われているなか、お互いに教育に関心がある、先生になりたいと思う学生たちがもっと責任をもって臨むことができるのではないかと思います。先生になりたいと思う学生こそ、お互いの異文化を歪曲しないで、ありのまま取り入れるのではないかと思います。教師というのはお互いの文化をつなげる架け橋になると思います。

N:全般的によかったのですが、時間の配分の面においてちょっと残念でした。日本側と韓国側で

用意したプログラムが全部終わってからグループ活動に行かないといけなかったし、民俗村での時間も3時間しかなかったところ。プログラムはよかったのですが、時間の配分の工夫が足りなかったと思います。そして、もっと短い時間でたくさんの人が参加できるようなプログラムがあるといいなと思います。

O: セミナーのテーマをもっとしっかりするのがまず先だと思うし、テーマに合わせたプログラムの工夫が必要だと思う。

P: もっときちんと準備ができてもっと発展できるといいなと思う。あ、そうだ！ホームステイの時は一人暮らしの人は入れないでほしい。それは韓国の家庭を十分に味わえないという短所があるからである。

Q: これからもこのようなセミナー、プログラムがたくさんあって、韓日の交流がもっと活発になるといいなと思う。

R: 一時的な行事で終わるセミナーでないことを願う。長く続けられるセミナーでこの出会いが続けられたらいいなと思う。また日本側の学生が韓国に来てホームステイをしながらセミナーに参加すると反対に韓国側からも日本側の家でホームステイのチャンスがあるといいと思う。

S: 今回のセミナーが初めてだと聞きましたが、準備は完璧だったと思います。私達が教える機会もあったし、習う機会もあったし、グループ活動もできたし…完璧だったと思います。

T: 10日ぐらいの日程で半分はセミナー、半分はソウルの近郊の紹介、一般家庭のよりたくさんの人との交流(?)などができたらと思います。それだったらそんなにきつく一つ一つ過ごす必要がなくて、余裕を持っていろいろなことを楽しんだり学んだりすることができるのではないかと思います。

U: グループの人数割りがあまりにも小人数だったと思うし、グループを毎日違う人で組んだほうがよかったのではないかと思います。同じグループの人だけで遊び、他のグループの人のなかでしゃべったこともない日本人もいたことが残念でした。そして最後の日、ホテルに泊まったのは日本側の学生も韓国側の学生も納得がいかなかったところです。ホテルに泊まるのが必要だったのかという疑問もありましたし、そのせいで最後に一緒にいられる時間も十分ではなかったので残念でした。期間が短い気もしましたしそれ以外はとてもよいセミナーだったと思います。日本と韓国の学生同士の交流というテーマにはぴったりの活動だったと思いますし、今度このような活動があったらまた参加したいと思います。今度は反対に韓国から日本に行ってお茶の水の学生のお家でホームステイをしたり日本でいろいろな活動をしたりできればいいなと思います。

V: まずセミナーの前にホームステイの相手との交流がとても大事だと思います。交流が一緒だった友だちとそうではない友だちとは少し違いがありました。相手と合わないとても大変なセミナーの期間になるので最初から交流が大事です。またセミナーのプログラムに関しては構成がよかったと思います。

W: 文化の違いについてのセミナーがあればいいと思います。

X: プログラムの内容をもっと多様に、そしてつまらないと思わない内容を用意するのがいいと思いました。これは学生側が用意する内容ですが、個人的には今回のプログラムを準備しながら一番

残念に思うところです。そういう面で自分が反省する意味で書いてみました。また1日の日程が少し長かったし、大変だと思うところもありました。日数を少し増やして、1日の内容を少し減らしたらいいのではないかと思います。

α: 趣旨がもっと明確だったほうがいいと思う。日本語、韓国語講座は時間の面においても内容の面においても足りないところが多かったと思う。

15. 今後日韓で開催してほしい企画があれば教えてください。

M: 上で述べたと思います。とにかく、今回の機会を通じ、日本についてもっといろいろ知ることができました。勉強になりました。

Q: 大衆文化の面の交流がもっと活発になるといいと思う。

R: 上でも述べたように韓国側からも日本側の家でホームステイのチャンスがあるといいと思う。そして、日本の浴衣とか祭りとは違う日本の一般の家庭での文化も体験できると思う。日本の大衆文化などの授業はたくさん接するチャンスがあると思うが、日常生活文化はまだそれほど扱われてない。

T: よりたくさんのお互いの文化が体験できたらいいなと思います。茶道とか日本の伝統の食べ物作り、衣装の試着などただ見るだけではなく、私達が韓国でただ本を通じ学んだ事柄の中で何か1つを実際に経験してみる時間があればいいと思います。

U: 今回は韓国だったのですが今度は日本に行っているいろいろ体験してみたいと思います。日本に行って日本の温泉とか城とかいろいろ昔の遺跡を見て回ったり学んだりするセミナーがあるといいなと思います。

V: 今思い浮かぶことは特にありませんが、まず今度またこのような機会が来ることを願っています。そして、とてもいい経験だったと思います。

X: 両国の学生がともに1つの作品を作って、展示するプログラムがあったらどうかと思いました。(写真とかモザイク、または彫刻など…)グループ活動の時と似ていると思いますが、小単位のグループではなく、みんなが一緒に作る、そして作ってから捨てるものではなくずっと残せる結果物としての作品を作るプログラム…。

α: 今回のプログラムのように、日本人ともっとたくさんの交流を通じ、お互いに異文化について理解できるきっかけがたくさんあるといいなと思う。

2. 教育指導の先生から

‘04 異文化間学習交流から学んだこと

同徳女子大学校・外国語学部教授 李徳奉

今年の夏休みに行われた日韓大学生国際交流セミナーにより、両国の参加学生たちは多くのことを考えさせられたと思います。自国の言語と文化を異国の学習者に習得させることの難しさを理解してもらえたことだけでも大きな収穫と言えましょう。というのは、文化が変われば学習文化も変わるわけで、自国の学習文化のままでは通用しない場合が多く、立派だと思われる自文化を異文化の学習者に紹介しても、なかなか理解してもらえない場合が多いからです。異文化間教育におけるこのような失敗は、もっぱら教えようとするトップ・ダウン式教師の態度に起因する場合があります。すなわち、教育に対する考え方の変更が求められているわけです。

今回のように、交換授業の形で行われた学習交換は、一方通行ではなく、相互教育を実現したという点において、相互理解にいたる新しいパラダイムと言っていいでしょう。今回の交換授業の中でも、とりわけ、学習における体験の威力を参加者たちは確かめられたと思います。

今後、異文化間学習交流を進めていく上で必要な姿勢は、文化の属性や機能について理解し、異国の学習文化を理解し、異文化に対するリスペクトの念をもってアプローチすることです。そのような基本姿勢さえあれば、どの文化圏の学習者とでも楽しく触れ合い、多くのことが教え合えると信じています。

今後とも、お茶の水女子大学の学生と同徳女子大学の学生との学習交流が続けられ、世界に通用する異文化リテラシーを習得していくことを望んでいます。

第1次韓日大学生国際交流セミナーを終えて

同徳女子大学校・外国語学部日本語専攻助教授 尹福姫

日本での私の母校であるお茶の水女子大学の学生たちが、「韓日大学生国際交流セミナー」に参加するため、私たちの大学を訪れることになったという話を伝え聞いたのは、セミナーの始まる1か月ほど前のことであった。9月に始まる別の日本の大学との研修の準備に追われていた私は、日本の学生たちが韓国に来るその日に空港へ出迎える段になり、ようやくにして、ああ、私の後輩たちが訪ねて来たんだ、といった実感が沸いてきた。お茶大の後輩たちの表情は、みな期待に満ちており、これから始まるセミナーの日程に相当な期待をしているように見えた。

1週間のスケジュール表を見た時、私は内心、不安が先に沸き上がってきた。そこには午前には韓日双方の言語を学び、午後にはグループ活動が組まれるという、かなりハードな日程が書かれていた。それに加え、寝泊りは言葉もあまり通じないホームステイ。これで果たしてこの交流の当初の目的が果たせるのであろうか、といった危惧の念が沸いてきたのである。

しかしながら第1回目となる今回の交流は、私の心配とは裏腹に成功裏に幕を閉じることができた。プログラムのすべてに参加できなかった私としてはその全部を推し量ることはできないが、日程が終わった後、交流に参加した私の学科の学生たちの意見を総合してみると、次のようないくつかの肯定的な成果が得られたことがわかった。

第一に、これまで表面的にのみ学んだ「日本」という国について、実際に日本人、それも同年代の日本の友だちと生活を共にしながら、多少なりとも日本という国の実体に触れる機会を得たということだ。言いかえれば、頭の中の知識でしかなかった日本が実際に自分たちのほうへ近づいてきて、自分が日本語を習っているということに対し、自負の念を感じることができたということである。

第二に、日本と日本人、日本文化に接することを通じ、逆に自分の国である「韓国」という国について、これまであまりに無知であったという反省を持ち、同時に関心と愛情が沸いてきたという点だ。これは参加した大部分の学生の共通した意見であった。

第三に、両国の学生が自らプログラムに自主的、積極的に参加し、一方的にだれかから教わるのではなく、教わりかつ教えることによる充実感や自信といったものが得られたという点である。

以上簡単に要約してみたが、これ以外にも、外には現れることのない人間的な交流、連帯感の形成、お互いの心が感じあう情と情の交流など、様々な面で意義深い交流であったと思う。

私は今後もこうした交流が続くことを信じ、期待する意味から、一つお願いしたいことがある。それはこのセミナーが、マンネリ化して型にはまってしまわないよう、常に新鮮さを保ちながら、学生相互間の期待に応えうる交流関係としていつまでも続いてほしいということである。

最後になったがこのプログラムの準備に努力を惜しむことのなかった森山先生、加賀美先生に心から感謝の思いを伝え、参加して下さったお茶の水女子大学の後輩たちにもいつまでも韓国に対するよき思い出を大切に持ち続けていただきたければと願っている。

日韓の壁を越える2つのキーワード

お茶の水女子大学・留学生センター助教授 森山新

セミナー初日、同徳に着いて両国の学生たちに「セミナーの趣旨」を話した際に、私は日本側の学生に2つのことをお願いした。一つはこのセミナー期間中、韓国の学生やホストファミリーに接する際に、「遠慮」という考えを一旦脇に置いてみてほしいということで、もう一つは、人との距離を今までの半分にしてほしいということだった。今回の研修は授業として行われたものではなかったため、異文化理解や韓国に関する事前研修などは行ったものの十分ではなかった。学生たちへの2つのお願いは、長年韓国で生活をしながら体得した、「韓国という異文化の壁を乗り越えるコツ」といったものだった。

日韓を比べると、普通はなかなか気づかないが、この2点において大きな考え方のズレがあり、これが異文化理解や交流を妨げかねないということを感じていた。韓国人の人から見れば、ホームステイをし、数日であっても一緒に暮らすということは、家族の一員となったも同然と考える。それなのに日本の学生は何で何もしないでただ座っているのだろう、何で日本の人はいつまでたっても他人のようによそよそしいのだろうと感じかねない。一方の日本人の目からは、韓国人の人は相手の気持ちやプライバシーを考えないのかとか、何でおせっかいなのかとかといった疑問を感じる可能性がある。しかしそういった誤解を乗り越えられれば、お互いの文化や習慣の中に自分たちには持っていないとでもすばらしいもの、学ぶべきものをたくさん見出し、親しくなれる、そう考えた。

最終日のホテルの前で、参加者みんなが涙を流しながら別れを惜しんでいた。空港へのリムジンバスは貸切バスでなかったため、普通ならバスの中で待つ他のお客さんのことを考え、早く乗らなければといった気持ちにもなるはずであろうが、だれもなかなかバスに乗ろうとしない。というか別れがたくて乗れなかったのだ。そのとき、日本の学生たちは当初私が心配していた異文化の壁を無事に乗り越え、韓国人のたちが持っているとってもホットな情の世界に触れることができたようだ、一人バスに乗り込んだ自分は、窓越しに彼女らの抱き合い涙し合う姿を見ながらかみしめた。

異文化に接した際に、その文化がとても好きになる人と逆に嫌いになってしまう人とに二分されるといわれる。そこには、もちろんその人その人の好みなどの問題も関わってこようが、両者の分岐点はむしろ、自国の基準で相手を理解したり、誤解したりすることなく、異文化の壁を越えられるかどうかという問題にかかっているのではないかと思っている。その人その国には必ずよい点、学ぶべき点があるはずで、相手の持っているそういった点に出会うことができさえすれば、基本的にはその人、その国が好きになれると思っている。

今回のセミナーは一週間足らずの短いものであったが、こういった経験をきっかけに、学生たちが日韓の架け橋となり、また国際舞台において国際交流の担い手として成長してくれることを願いたい。またこうした人や文化との出会いが今後も継続的に行われ、多くの学生に感じてほしいと願っている。最後にこの企画においてご協力いただいた、同徳女子大学の先生・学生の皆様、そしてお茶の水女子大学の先生・学生の皆様に感謝したい。

講 評

お茶の水女子大学・留学生センター助教授 加賀美常美代

一人一人が、共に学び、活動をし、寝泊りすることで、お互いに感動的な体験、楽しい体験、心が締め付けられるような体験などさまざまな体験をしたことと思います。しかし、数日でしたが、楽しかったことも大変だったことも含めて、韓国での体験そのものが大きな意味があるのではないかと思います。日本の学生は、一緒にすごした韓国の学生を通して、また、韓国の学生は、日本の学生を通して、コミュニケーションの仕方や人間関係、ものの見方の違いを感じたかもしれませんが、それと同時に、同じ世代の若者同士として、共通した感覚を実感できたのではないかと思います。さらに、この体験で自分の将来を考えるきっかけができたり、日本と韓国の過去と現在と未来を考えたりすることができれば、私としては、一層うれしく思います。

日本での留学生の異文化体験は、学生同士の歩み寄りができず、なかなか最初の一步が踏み出せないこともあるのですが、今回のセミナーで、日本の学生は、韓国の同徳女子大学の皆様に、丸ごと受け入れられ、支えられ、大きな一步を踏み出せた気がします。こうした学生同士の体験の場を与えてくださった同徳女子大学に本当に感謝申し上げます。それとともに、李徳奉先生、尹先生、学生の皆様に心より感謝いたします。

今回のセミナーに参加した学生同士の真の友情が育まれますように、そして、それが私たちの未来への国際貢献につながりますように、心から期待しております。

3. 協力者から

交流セミナーに参加して

水口里香（同徳女子大学校大学院博士課程）

お茶の水女子大学(修士課程)の卒業生であり、同徳女子大学の在籍する学生ということで、初日からカメラ撮影などを担当させて頂いたのだが、今回のセミナーによって、自分自身の「異文化と対峙する姿勢」を内省する機会を与えられたと思う。プログラムへの参加を通して感じたことや自分自身の内省を、以下にまとめてみたい。

今回のセミナーでは、日韓言語・文化エクステンジプログラム、そして日韓合同グループ別のグループ活動がメインの、言わば「学生主体のプログラム」であった。言語や文化のエクステンジというものは、ごく一般的な交流プログラムにもよくあるものである。しかしながら、今回のプログラムは「教える側と教えてもらう側」といった形ではなく、「ともに考えて、教える側も新たな発見をする」といった形でプログラム全体が進んでいた点には、大変感心させられた。これまで、日本について様々な質問を受けてきた私だが、ほとんどの場合「教えてあげる」という姿勢で接してきた。しかし相手側からも学ぼうとする姿勢、つまり相手と同等の立場に立つことは、異文化と対峙する際に忘れていけないことだということ、このエクステンジプログラムから学ぶことが出来たと思う。

また 2 日目のグループ活動の際に加々美先生から提示された「3 日目のソウル市内探訪では、『韓国の人たちが、大切にしてきたもの』を見つけよう。」という問いに対する学生達の「自分のこと、そして自分の国について良く分かっていないことを知った」という気づきにより、私自身の異文化に対する姿勢を顧みることができた。異文化と向かい合う前に自文化、そして自分という「個」というが何なのかを見つけることからスタートしなければ、本当の意味で異文化を知るなど出来ないのではないだろうか。韓国に来てから早 2 年半が経つ私だが、自分という「個」をどれほど分かっているのだろうか。分かったつもりになっているだけではないだろうか。彼女達のグループ活動での気づきにより、そんなことを深く考えるよい機会となった。

そして学生達のうちとけあいの姿についてであるが、学生達の感想にも「始めはぎこちなかった」とあるように、2 日目午前までは両者の間にぎこちなさを感じた。しかしどちらからともなく近づき、休み時間の間も日本・韓国に固まることなく交流を進めていた。このような光景は、ごく一般的な交流プログラムではなかなか見られないものであり、私にはとてもキラキラして見えた。言葉は完璧に通じないかもしれないけれど、とにかく相手に近づいてみようとする彼女達の態度は、彼女達自身の努力であると同時に、今回のセミナーを準備して下さった日韓両国の先生方がファシリテーターとして、学生達に「異文化に対する態度」を考えさせる機会を与えて下さったからだと思う。

今回のセミナーは、学生達の異文化交流のスタートに過ぎない。今後、彼女達自身で、今回築きあげた関係をどのように続けていくか、また異文化と衝突するような事態が起きた場合、どのような行動をとるのだろうか。今後が期待される。そして、このようなセミナーが来年も再来年も続くことを期待している。

【編集後記】

2004年は韓流が吹き荒れた一年となった。この企画を考案したころは、そんな年になるとは予想もしていなかったが、今とってみると、日韓の女子大学が互いに学び合う、こうしたセミナーが2004年に開始されたことは、時流に合った企画であったようだ。

実際に主催者として参加してみると、指導のため学生たちに同行するということが大変な苦勞を伴うことであると痛感したが、報告書を作成しながら、そうした苦勞の甲斐もあったと喜んでいる。産みの苦しみを乗り越えて、何とか定着していけたらいいと思う。

来年2005年は「日韓友情年」、友情の絆がさらに深められていくことを祈りたい(森山)。

「日韓大学生国際交流セミナー」に参加できませんでしたが、6月に開講された韓国語講座には参加し、韓国語の初歩を学びました。韓国語に興味を持つようになったのは、「冬のソナタ」の影響ではなく、3年前に韓国に遊びに行ったとき、言葉が通じなかった怖さからでした。おかげで韓国語が少ししゃべれるようになり、ハングルが読めるようになりました。さらに今回の「日韓大学生国際セミナー」の報告書の編集のお手伝いをするを通じ、韓国語を自分の第3外国語として学習したいとますます思うようになりました。(陳)

【謝辞】

最後に、このセミナー開催にあたり、会場や諸施設、大学のスクールバスなどをご提供くださり、私たちが心温かくお迎えくださいました同徳女子大学の先生方及び学生の皆様、日本の学生たちのホームステイを快く引き受け、お世話くださったご家族の皆様、安全対策にご協力くださったお茶の水女子大学の皆様(国際・学術課、国際交流室、留学生センターなど)に心から感謝いたします。また編集にご協力くださった陳さん、お忙しい中、校正にご協力くださった方々に感謝します。

2004年第1回日韓大学生国際交流セミナー報告書

発行年月日 2005年1月31日
発 行 お茶の水女子大学留学生センター
住所 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
電話&FAX 03-5978-5965
<http://jsl-server.li.ocha.ac.jp/index.html>
発行 協力 同徳女子大学外国語学部日本語専攻
住所 〒136-714 ソウル特別市城北区月谷洞23-1
電話 02-940-4370 FAX 02-940-4191
編 集 森山新(お茶の水女子大学)
印 刷 よしみ工産



★第1回日韓大学生国際交流セミナー★